



Nursing now

「看護の日・看護週間」制定30周年・
ナインゲール生誕200周年 記念イベント
報告書

Nursing Now
看護の力で未来を創る

Nursing Now: Creating the Future by Power of Nursing

開催日時：2021年 1月21日(木)9:30～17:00



目次

「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念イベント

Nursing Now：看護の力で未来を創る

開催趣旨	2
開催概要	3
広報関係資料	4

「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典／第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式

ごあいさつ	6
「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典／第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式	8
第10回「忘れられない看護エピソード」受賞作品	10
第10回「忘れられない看護エピソード」Nursing Now賞	12
ゲスト審査員・荻野目洋子さんのトークショー／歌のパフォーマンス	14

Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン

ごあいさつ	16
プログラム	18
オープニングセッション	20
分科会1：トリプル・インパクトと政策	24
分科会2：在宅看護と持続可能な社会～看護師が社会を変える～	28
分科会3：災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けた看護の貢献	32
クロージングセッション	36
Nursing Nowキャンペーン実行委員会参加団体の取組み紹介	38
Nursing Nowキャンペーン実行委員会・都道府県看護協会の参加状況	54
参加者アンケートに寄せられた主なコメント	56

「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念イベント 「Nursing Now:看護の力で未来を創る」開催趣旨

「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念イベントとして、2021年1月に「Nursing Now:看護の力で未来を創る」を開催した。「看護の日・看護週間」が30周年となることを踏まえ、これまでの活動を総括し、今後の一層の活動につなげる契機とすること、また、目下わが国でも進行中の「Nursing Nowキャンペーン」の趣旨が「看護の日・看護週間」と同じ方向にあることに鑑み、人々の健康な暮らし、社会活動、医療提供の効率化に資する看護等について議論を行い、その社会的な価値を明らかにすることを目指した。

本イベントでは、「『看護の日・看護週間』制定30周年記念式典・第10回『忘れられない看護エピソード』表彰式」及び「Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン」の二つを行った。

また、当初は2020年5月の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2021年1月に延期の上、ウェブ配信形式での開催となった。

後援

厚生労働省、外務省、文部科学省、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本病院会、公益社団法人全日本病院協会、一般社団法人日本医療法人協会、公益社団法人日本精神科病院協会、公益社団法人全国自治体病院協議会、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本精神科看護協会、公益財団法人日本訪問看護財団、一般社団法人全国訪問看護事業協会、公益社団法人全国老人保健施設協会、公益社団法人全国老人福祉施設協議会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、日本労働組合総連合会、認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML

Nursing Nowキャンペーン実行委員会

公益社団法人日本看護協会、日本看護連盟、公益社団法人日本助産師会、全国保健師長会、一般社団法人日本精神科看護協会、一般社団法人日本看護学校協議会、公益財団法人日本訪問看護財団、一般社団法人全国訪問看護事業協会、一般社団法人日本看護系大学協議会、一般社団法人日本私立看護系大学協会、一般社団法人全国保健師教育機関協議会、公益社団法人全国助産師教育協議会、認定看護管理者会、一般社団法人看護系学会等社会保険連合、公益財団法人笹川保健財団、公益財団法人木村看護教育振興財団、WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター/聖路加国際大学、災害健康危機管理WHO協力センター/兵庫県立大学地域ケア開発研究所、国立研究開発法人国立国際医療研究センター、日本赤十字社医療事業推進本部看護部、独立行政法人労働者健康安全機構、国立大学病院看護部長会議、社会福祉法人恩賜財団済生会、一般社団法人日本私立医科大学協会病院部会看護部長会、独立行政法人地域医療機能推進機構、全国国立病院看護部長協議会、公益社団法人全国自治体病院協議会看護部会、国家公務員共済組合連合会、一般社団法人日本産業保健師会、一般社団法人日本看護系学会協議会

「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念イベント 「Nursing Now:看護の力で未来を創る」開催概要

開催日時：2021年1月21日（木）9：30～17：00

開催方法：東京ポートシティ竹芝 ポートスタジオをメイン会場として国内外にウェブ配信

- 主催**：●厚生労働省・日本看護協会：「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典／第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式
●日本看護協会・笹川保健財団：Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン

参加状況：

	「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典 第10回「忘れられない看護エピソード」 表彰式	Nursing Nowフォーラム ・イン・ジャパン
参加登録者数	4,248人	5,364人
パブリックビューイング会場数	243か所	267か所

使用言語：

- 「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典／第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式：日本語
- Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン：日本語・英語

「看護の日・看護週間」とは

- 21世紀の高齢社会を支えていくために、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、誰にも育むきっかけとすることを目的に1990年に制定された（「看護師等の人材確保の促進に関する法律」基本指針第六の一）。制定以降、現在に至るまで「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとして取組まれてきた。2020年は制定30周年となる。
- 「看護の日（5月12日）」を含む1週間を「看護週間」と定め、中央行事と各都道府県におけるイベント等を開催する。
- 2011年からは、中央行事として「忘れられない看護エピソード」を開始し、看護に関わるエピソードの募集・表彰・普及を通して、国民の看護に対する理解の向上を図っている。2020年が開始10周年となる。

Nursing Nowとは

- 2018年2月に、世界保健機関（WHO）、国際看護師協会（International Council of Nurses）の賛同を得て、Nursing Nowキャンペーンが開始された。2020年11月時点で、世界127カ国で700以上のキャンペーングループが設立され、活動している。
- 本キャンペーンでは、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、看護職が健康課題に積極的に取り組み、人々の健康の向上に貢献するために、看護職と看護職を支援するパートナーが行動する。
- 日本では、2019年5月に看護系30団体で構成される「Nursing Nowキャンペーン実行委員会」を厚生労働省と連携して発足させ、日本全国でのキャンペーンの普及に取り組んでいる。

広報関係資料

「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念イベント「Nursing Now：看護の力で未来を創る」を広く周知するため、さまざまなツールでPRを実施した。



▼ポスター、チラシ
ポスター1,000枚、チラシ80,000枚を制作。全国延べ約11,000カ所に配付し、イベントの参加を働き掛けた。



▼特設ウェブページ
日本看護協会ホームページ内に特設ページを作成し、イベントに関する情報を配信。イベント開催後は当日のアーカイブ映像を配信した。



▼ニュースリリース
メディア関係者へ向けたイベント後のリリース配信を行い、記事化を働き掛けた。



▼新聞広告
イベント参加概要を、読売新聞東京版（夕刊）に広告を2回掲載（計5段分）。



▼機関紙「協会ニュース」
日本看護協会機関紙「協会ニュース」2月号（2月15日発行）に、イベント実施概要を3ページにわたって紹介した。



「看護の日・看護週間」
制定30周年記念式典

第10回
「忘れられない看護エピソード」
表彰式

主催：厚生労働省・日本看護協会

厚生労働大臣あいさつ



厚生労働大臣 田村憲久

厚生労働大臣の田村憲久です。

「看護の日・看護週間」30周年記念式典の開催に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を最優先にする観点から、直接皆さまにお会いし、ごあいさつすることができませんでした。この記念すべき「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典を開催できましたことに心から感謝申し上げます。

「看護の日・看護週間」は、高齢化社会を支えていくために、国民一人一人がお互いにお互いを思いやり、看護について関心と理解を深めることを目的として、平成2年に制定されました。

以来30年、「看護の日・看護週間」ではこれまで、都道府県看護協会や全国の看護職、医療関係者の皆さまと共に、全国各地で看護の魅力を紹介し、看護について参加者と共に考えるためのさまざまな行事が行われてきました。

月日を経る中で、社会や人々はもちろん、看護の中身そのものも変わってきていますが、根底に流れる「看護の心」は変わりません。

この取り組みを通じて、国民の皆さまの看護についての関心を高め、理解を深めることは、大変意義深いことです。準備にご尽力されました関係者の皆さまに対し、心から御礼を申し上げます。

現在、わが国においては、団塊の世代が75歳以上になり始める2022年を目前に、地域包括ケアシステムの構築等、患者・住民の方々々が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境整備が求められています。

また、労働力の不足や医療従事者の働き方改革に対応するため、看護業務の効率化、医療・福祉サービス改革による生産性の向上に向けた取り組みも進めていく必要があります。

こうした中で、急性期医療から在宅医療まで、さらに生活者の視点を持って、地域のさまざまな場において、他職種と協働しながら患者・要介護者を支える看護職の役割はさらに重要性を増しています。

厚生労働省では、こうした看護職を取り巻く環境の変化に対応するため、質の高い看護職の養成・確保に関する施策を実施しております。

具体的には、看護基礎教育検討会報告書を受けて、今般、省令改正を行い、2022年度より看護師等養成所の教育カリキュラムを見直し、免許取得前の教育の充実を図ることとしております。

また、特定行為研修において、在宅・慢性期領域等6つの領域別パッケージ研修を設定し、安全かつタイムリーに患者に必要な医療を提供することができる、特定行為研修修了看護師の養成を推進しています。

こうした取り組みを通じて、全ての世代が安心できる社会を目指す上で重要な担い手となる看護職の皆さまが、より一層働きやすく、活躍できる環境整備に努めてまいります。

この「看護の日・看護週間」を一つの契機とし、国民の皆さまの看護への関心と理解がさらに深まることを期待するとともに、皆さまのご健勝をお祈りして、私のあいさつといたします。

日本看護協会

会長あいさつ



公益社団法人日本看護協会会長 福井トシ子

日本看護協会会長の福井トシ子でございます。

「看護の日・看護週間」制定30周年式典／第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式の開会にあたり、ごあいさつ申し上げます。

まずは、医療の現場、介護の現場、地域のさまざまな場所で、新型コロナウイルス感染症のケア、予防にあたっている看護職の皆さま、そしてその看護職を支えるご家族の皆さまに、心から感謝を申し上げます。

本式典・表彰式につきましても、昨年5月の看護週間に開催を予定しておりましたが、感染防止の観点から開催を延期し、このたびウェブで開催させていただき運びになりました。また、感染防止に配慮した形で、各地域・各職場のバブリックビューイングでもご参加いただいております。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中ではございますが、ウェブを通じて多くの方にご参加いただき、このように式典・表彰式を開催できますことを、感謝申し上げます。

さて、2020年は「看護の日・看護週間」制定30周年、そして「忘れられない看護エピソード」10周年の節目の年でもございます。また、ナイチンゲールの生誕200年を機に、世界各国で「Nursing Nowキャンペーン」が展開されています。

5月12日の「看護の日」は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に由来し1990年（平成2年）に制定されました。スイスに本部がある国際看護師協会でも、5月12日を「国際看護師の日」と定めています。

「看護の日」が制定された当時、看護の就業者は約84万人で看護職の不足が叫ばれた時代でした。それから30年、現在では約166万人の看護職が病院や訪問看護ステーション、介護施設をはじめ、さまざまな場所で活躍しています。

いま看護職として働いていらっしゃる皆さんの中にも、学生時代に「看護の日」事業で実施してきた「ふれあい看護体験」や「看護の出前授業」を通して看護の魅力を感じ、看護職を目指した人も少なくないのではないのでしょうか。

さて、10回目を迎える今回の「忘れられない看護エピソード」には、看護職・一般の皆さまから2,702作品の応募があり、これまでの10回で3万通以上もの応募をいただいております。私も審査員の一人として作品を読ませていただき、素晴らしい看護職たちの活躍や、患者さん・ご家族からの温かなメッセージに触れることができました。

それぞれの作品から、皆さまと人生のさまざまな場面を共にし、より良く生きられるように、あるいは悔いなく生きられるように支えている看護職たちの姿を、感じていただけることと思います。

毎年、表彰式会場で受賞作品の講評をいただいている、特別審査員の内館牧子さんには、受賞作品の講評VTRをいただいております。ゲスト審査員の荻野目洋子さんには、作品の朗読とトークショー、さらに歌の披露もお願いしております。ぜひお楽しみください。

また今回はNursing Nowキャンペーンに関わって、新たに「Nursing Now賞」を設け、看護の力で人々の健康に貢献したことを実感した看護実践・経験を募集いたしました。本日は、受賞者された渡邊美香さんにも、スタジオに来ていただいておりますので、後ほど作品に取り上げた看護実践についてもお話を伺いたいと思っております。

最後になりましたが、「看護の日」が30周年を迎えることができましたのは、ご後援・ご協賛の各団体・企業の皆さまのお力添えによるものです。この場をお借りして心よりお礼申し上げ、主催者のあいさつとさせていただきます。

「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典 第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式

看護の心、ケアの心、助け合いの心を、老若男女を問わず誰もが育むきっかけとなるよう市民・有識者による「看護の日の制定を願う会」の運動がきっかけとなり、旧厚生省により、1990年に「看護の日」（5月12日）が制定された。

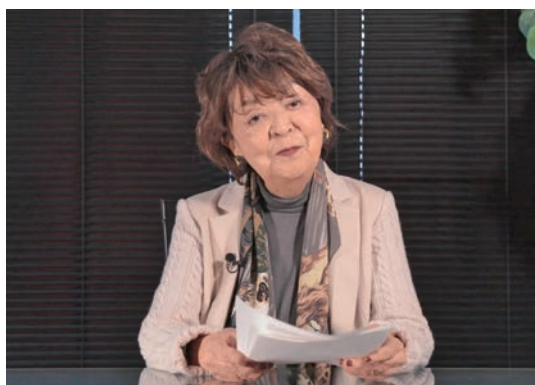
フローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日に制定された「看護の日」は2020年で30周年を迎える。この節目の年に、「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典および第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式をオンラインで開催した。



主催者としてあいさつする福井会長



作品を朗読する荻野目洋子さん



作品講評と看護職へのエールを送る内館牧子さん



Nursing Now賞を受賞した渡邊さん（中央）



歌のパフォーマンスをする荻野目さん



閉会のあいさつをする勝又浜子専務理事

第10回「忘れられない看護エピソード」受賞作品

【看護職部門】

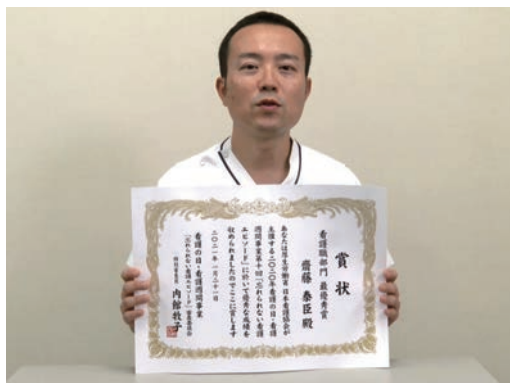
- **最優秀賞**：「その声は」 齋藤泰臣さん（佐賀県）
- **内館牧子賞**：「ハル子ちゃんのおにぎり」 久保百香さん（埼玉県）
- **優秀賞**：「つなぐ命」 野澤美枝子さん（栃木県）、「いっ、て」 成田裕子さん（東京都）、「白い看護師 黒い看護師」 大野裕子さん（愛媛県）
- **入選**：「次いつ来るの？」 小泉美香さん（新潟県）、「母と子の時間」 辻川尚子さん（岐阜県）、「爪切り」 土屋操さん（長野県）、「奇跡が起こるかもしれない」 一井美哉子さん（愛媛県）、「絆創膏」 中島由美子さん（新潟県）

【一般部門】

- **最優秀賞**：「今も元気に出してます」 新田剛志さん（大阪府）
- **内館牧子賞**：「看護師として」 池田幸生さん（東京都）
- **優秀賞**：「看護師の“気付き”」 稲村歩美さん（千葉県）、「仕事という名の愛に感謝」 西田恵子さん（大阪府）、「2年越しの思い」 坂井祐子さん（佐賀県）
- **入選**：「魔法の言葉『かんどしききます』」 中野淳子さん（山口県）、「やさしさ」 悦喜未奈子さん（広島県）、「救ってくれ ありがとう」 高橋久さん（栃木県）、「心を健康にしてくれた看護学生さんへ」 庄田恵理さん（茨城県）、「おめでとうの本当の意味」 齋藤絵美さん（福島県）

【Nursing Now部門】

「セルフケア看護の実践によるハピネス」 渡邊美香さん（東京都）



看護職部門・最優秀賞を受賞した齋藤さん



一般部門・最優秀賞を受賞した新田さん



看護職部門・内館牧子賞を受賞した久保さんの手紙を代読



一般部門・内館牧子賞を受賞した池田さん

第10回

忘れられない看護エピソード

最優秀賞

【看護職部門】 その声は

〈佐賀県〉 齋藤 泰臣 さん

「病院まで遠いよ。最期の会話になるかもしれない」「そんなことない。間に合う」と小声で言い争う男女の声が、師走の電車で揺られていた私の耳に入ってきた。聞き耳を立てるつもりはなかったが、切羽詰まった男女のやり取りと内容が気になった。

夫婦と思しき2人は、携帯電話をのぞき込み会話を続けていた。「電話したほうが良いよ」「いや、人の迷惑になる。駅に着いてからでいい」。他の乗客も気になるのか、2人に視線を向けていた。「意識なくても耳は聞こえるって。掛けなさいよ。お義父さん、待っているよ」「電車内だから掛けられないよ」。お互いに感情が高ぶり、少しずつ声が大きくなっていった。携帯電話の向こう側で、息を引き取ろうとしている父親がいて、臨終の場に間に合わない状況にあるということは、その場の誰しもが理解できた。

緩和ケア病棟に勤務する私にとっては、静観できない場面であった。病棟では家族から患者への最期の声掛けを、後悔がないように気持ちを伝えることを促し

てきた。躊躇いながらも席を立ち、2人に近付こうとした時、「電話、掛けたほうがいいですよ」と2人の正面に座っていた女性が声を掛けた。近くにいた乗客も見守りながら頷いている。背中を押されたように男性が電話を掛ける。「お袋、親父の耳元に携帯電話を置いてくれ」。電車内に声が響く。「親父、親父が一生懸命働いてくれたから、俺たちは腹一杯に飯が食えて、少しもひもじい思いしなかったよ。心配しないでいいから。本当に、本当にありがとう」。静まり返る電車内で嗚咽を懸命に抑える男性。苦情を言う者などいしなかった。

2人は何度も乗客に頭を下げながら、目的の駅で降りていった。電車内に師走の喧騒と冷気が入り込む。しかし、言葉にはできない胸の温かさを私は感じていた。あの場にいた誰もが、まさに「看護」をしていた。そして誰もが胸の温かさと同様に感じていただろう、「その声は届いている」と。

【一般部門】 今も元気に出してます

〈大阪府〉 新田 剛志 さん

あの日を一生忘れません。すごく寒くて、お天気が良くて、そして夕日が本当に綺麗な日でした。ただその前の1カ月ほどは眠れず、食事も採っておらず、心も病んでいました。

私は勤務先の会社でトラブルを起こしてしまい、その日は人事部長と面談することになっていました。会社が関係を別つことを告げるために設けられた会合でした。

とあるホテルでの会合を終え、会社への帰路につきました。社会人としての全てを否定され、経験の浅い私は、存在そのものを否定されてしまったと受け止めてしまいました。状況を受け入れるには経験が少なすぎ、考えは悪い方にしか向かず、家族に対して果たすべき責任の取り方も、自分の命を引き換えにする以外に思い浮かばなくなっていました。

会社がある駅についても会社へは足が向かわず、駅のトイレでは何を考えても涙が止まりませんでした。

重い足を引きずり、構内を出て、駅前の広場を通ると、献血バスが目に入りました。過去に何度か経験があっ

たため、逃げ込むように献血バスに行きました。

簡単な手続きをして、採血のために利き腕を差し出した際、担当してくれた看護師さんが「とても立派な血管ですねえ、採血がしやすいです」と褒めてくださいました。私がそんなに採血しやすいですか？と尋ねると「すごい勢いで出ています。濃さもしっかりしていて本当にありがたいですね。こんな血管を持っている人がたくさんいると助かりますね」とまた褒めてくださいました。零れ落ちそうな涙を必死にこらえ、看護師さんに別れを告げ、バスを出ました。

空にはびっくりするほど綺麗な夕日が見えました。

あの時の看護師さん！ 本当にありがとうございます。あなたが血管と血液を、私の存在をほ褒めてくださったおかげで、今も元気に生きています。献血は50回を超えましたよ、先日は骨髓バンクドナーとして、骨髓提供もしました。

看護師さん本当にありがとうございます！あなたは命の恩人です！今も元気に出してますよ！

内館牧子賞

【看護職部門】 ハル子ちゃんのおにぎり

おにぎりは三角形と決めている。

35年以上も前の話である。看護学校を卒業し、初めて配属されたのは小児病棟だった。可愛い子どもたち相手なら毎日楽しく仕事ができるだろうと希望した部署だったが、新人ナースの日々はそんな甘いものではなかった。覚えることが山のようにある上、子どもたちはすぐに嫌々をするし、泣き叫ぶし、思ったように動いてくれない。そんな患児とどう接していいかわからず、辞めようと思ったこともあった。痛い検査や治療で、本当に辛いのは子どもたちのほうだったのに。

その日、私はハル子ちゃんの担当だった。2歳で小児がんを発症し、今回何回目かの抗がん剤治療で入院していた。顔見知りの先輩ナースや先生たちとは打ち解けていたが、新入りの私にはなかなか懐いてくれなかった。

お昼の時間になり、私は抗がん剤の副作用で食欲のないハル子ちゃんに少しでも食べてもらおうといういろいろ努力してみたが、横を向かれてしまった。どうして

〈埼玉県〉久保 百香 さん

いいのかわからず、諦めて下膳しようとした時、「かんだおふさん、おにぎりつくれる?」「さんかくだよ」と、小さな声でハル子ちゃんが私に話し掛けてきた。「ごめんね。かんだおふさん、三角おにぎり作れないんだ」。

情けない気持ちで正直に話すと、「じゃあ、おしえてあげるね」と、ハル子ちゃんはそう言ってくれた。

「ふたつの手をおやまのかたちにして、その手でごはんをにぎったら、お手々の中でクルッとまわすの」

小さい手で一生懸命教えてくれるハル子ちゃんに感動しながら、私は精一杯おにぎりを握った。人生初の三角おにぎりは、少しゆがんでいたが、「かんだおふさん、じょうずにできたね」。

ハル子ちゃんは、天使のような微笑みでそう褒めてくれた。

あの日から、くじけそうになった時あの光景を思い出す。そして、ときどきハル子ちゃんにこう話し掛ける。

「ハル子ちゃん、もう一かいさんかくおにぎりのつくりかた、おしえてほしいな」

【一般部門】 看護師として

私は、自衛官として30数年間を勤務して来ましたが、その間に東日本大震災を経験しました。その当時、学校教官として看護師のクラスを受け持っていました。教え子の一人は、学校を卒業して仙台に勤務になりましたが、そのときに東日本大震災が起きました。当時彼女は、自衛隊病院に勤務しておりました。夜勤明けで自宅に小学校1年の息子といたところを被災しました。ガラスが割れ、食器が落ち、壁にヒビが入り、電気、ガス、水道が止まりました。泣きわめく息子をなだめている時に、病院から非常呼集の連絡がありました。病院に出動する要請でした。彼女が着替えていると、息子が足にしがみ付いて来ました。

「お母さん！ お母さん！ 行かないで！ 行かないで！ 1人にしないで!!」と泣きじゃくります。

普段はこんなに泣く子ではないのに……。

「お母さんは看護師で、自衛官なの。だからどうしても行かなきゃいけない。皆を助けなきゃいけないの！」

〈東京都〉池田 幸生 さん

何度も何度も息子に説明しているうちに、自分でも涙が止まらなくなりました。

「自分の息子さえ守れないのに、他人が守れるの?」。そんな言葉さえ浮かびました。

それでも！ それでも！ 歯を食いしばって、彼女は息子に言い聞かせました。

「人を助けるのがお母さんの使命なのよ！ あなたも自衛官の息子で、看護師の息子でしょう！ 理解しなさい！ 耐えなさい！」

息子は体を振るわせて、涙を流しながら、返事をしたそうです。

「うん……。分かった。僕、待ってるよ……」

あれから8年が過ぎました。

「そんなことあったっけ?」

息子はこの話をすると、上の空で、彼女の顔を見るそうです。

Nursing Now賞

セルフケア看護の実践によるハピネス

私は循環器内科病棟の看護師長をしていました。ある一人のナースの看護実践により、スタッフの患者さんを捉える視点が変化しました。

Aさんは60代の一人暮らしの男性で、心不全の急性増悪で緊急入院を繰り返していました。Aさんの入院に対して、スタッフは「また、Aさんが入院してきた」と言っていました。私は、その発言にネガティブな感情が現れているのが気になっていました。そこで、M看護師に、患者の強みに着目したセルフケア能力の評価指標を活用した看護の実践を提案しました。M看護師とAさんが一緒に生活を評価することで、Aさんは病気を理解し、水分・塩分に気を付けているが、受診のタイミングが分からず、重症化してからの入院になっていたことが分かりました。タイミングを話し合った結果、Aさんは風邪かなと思ったら、様子を見ずに受診するようになり、入院となっても軽症のため早期に自宅退院できました。

Aさんを生活者として捉えた寄り添う看護の実践は、

〈東京都〉 渡邊 美香 さん

いくつかのハピネスを生み出しました。Aさんにとってのハピネスは、入院が短くなったことです。入院による体力の低下が起きず、治療費も抑えられます。看護師にとってのハピネスは、患者さんを捉える視点の変化です。「どのような生活をしていたのかな」と生活者としてのAさんに着目するようになり、患者さんを多面的に捉えて強みを引き出し、入院中から退院後の生活を一緒に考えるようになりました。

看護管理者（私）にとってのハピネスは、患者さんが尊重される職場風土の醸成ができたことです。患者さんとスタッフ双方の変化や成長を実感しました。中でも、M看護師自身が、スタッフの患者を捉える視点の変化に自分の取り組みが影響を及ぼしていると気付く過程は、ダイナミックな様相を呈していました。最後に、病院としても、患者が重症化しないことは入院期間の短縮に繋がり、診療報酬上もベッドの有効活用の点でも利益がありました。

講評

ナイチンゲールの生誕200年である2020年末まで、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、人々の健康向上に寄与するために行動するNursing Nowキャンペーンが世界的に行われています。今回、これにちなんで設けられたNursing Now部門では、看護の力で人々の健康に貢献したことを実感した看護実践・経験を募集しました。

Nursing Now賞の受賞作品は、看護師長である作者が、看護の質向上の観点からスタッフと患者との関わりを綴っています。患者へのケアや支援だけでなく、スタッフの育成や病棟管理などの視点を持ち、多面的な成果を記した点が評価されました。患者を尊重した看護の実践が、スタッフや組織の成果にもつながった、同賞にふさわしい作品です。



受賞者の渡邊さん（左）への賞状授与の一幕



記念撮影（左からハローキティ、渡邊さん、福井会長）

解説

Nursing Now賞の受賞作品「セルフケア看護の実践によるハピネス」は、病棟の看護師長である作者の目を通して、慢性疾患の患者と看護師との関わりが、患者のみならず、ほかのスタッフや組織にも良い影響を与えていった様子を描いた作品です。

地域包括ケアシステムが進み、在宅での療養が重視される中、作者が勤める急性期病院でも、入院中から退院後の生活を意識した看護を進めていました。入院は、退院後の地域での生活を考える機会でもあり、看護師は、退院後の生活を見据えて最大限、患者の持っている力を引き出すことが大切です。

作者は、心不全で緊急入院を繰り返していた患者Aさんに対し、効果的に行動変容を促し、セルフケアを支援することが大事であると考え、SCAQ（Self-Care Agency Questionnaire）という評価指標を使うことを担当の看護師Mさんにすすめました。SCAQは、患者がふだんの生活や療養上、気を付けている点などについての質問に回答し、各項目をレーダーチャート化して評価する、患者の強みを引き出すことに着目したツールです。

Aさんが患う心不全は、急性増悪で入院して状態が悪化すると、入院期間が1カ月に及ぶこともあります。しかし、体調に異変を感じた時点で、できるだけ早く受診してもらおうと、1週間ほどで退院できることも多くあります。

SCAQを使うことで、患者は自らの状態を知り、病気を抱えながら生活していく上でのヒントが得られます。入院時から看護師と一緒に評価を見ていくことで、退院後の生活を一緒に考え、患者の強みを強化し気付きを促すこともできます。

Aさんも、SCAQを使う中で自らが重症化してから入院していたことに気付き、軽症のうちに対処して、入院期間が短縮化されるという成果が出ました。さらに、Aさんの自己管理の様子が分かったことで、Aさんに対する看護の在り方も変わりました。作者は、スタッフとともにAさんの努力を再評価し、病気が悪化しないための関わりから見えたことをスタッフに問い掛けました。慢性疾患を持つ患者に「指導」するのではなく、一緒に考えるプロセスを大切にしていたのです。

こうした中で、M看護師にも変化が生まれました。日々の業務を効率的にこなすのではなく、多面的に患者を捉え、患者自身が生活や病状をうまく語れるような場をどのようにつくるかを考えるようになったのです。M看護師は、看護の力や自らの影響力に気付き、それを部署のスタッフに伝えたいと、カンファレンスを開くまでになりました。

こうした変化には医師も驚き、院内での看護の関わりに対する評価も変わりました。作者も、医師の評価を看護師たちに伝え、作中で「ダイナミックな様相」と表現してM看護師の変化や成長をたたえています。作者は看護管理者として、M看護師が大きな経験を得たことや、スタッフからAさんに対するネガティブな言葉が消え、患者の尊厳を守る風土が生まれたことが何よりうれしかったといいます。

作中では、慢性疾患で再入院する患者を単に自己管理が不十分だったと見るのではなく、ツールをうまく活用して状態を客観的に評価しました。本作品には、患者が自らの状態に気付き、看護師がそれを支えていくという真摯な看護の在り方を大切にしたい、という作者の思いが込められています。

2015年、国連のサミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、本会が掲げた目標「住民の健康を支える看護モデルの確立」が示すように、今後、療養の中心が地域になっていくとき、看護職が率先して貢献することが求められています。本作品は、急性期病院を舞台としながらも、地域で生活する患者への視点がしっかりと認識され、取り組んでいたことも大きな魅力でした。また、Nursing Nowの活動では、看護のエビデンス収集も目的の一つとなっています。このエピソードのように、普段の看護実践の中で成果があったことについてプロセスやアウトカムを明らかにし、広く共有していくことが期待されます。

ゲスト審査員・荻野目洋子さんの トークショー／歌のパフォーマンス



トークショーに参加する荻野目さん（左）、井本常任理事（右）



歌のパフォーマンス

第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式内のプログラムでは、特別審査員を務めた荻野目洋子さんと日本看護協会 常任理事 井本寛子によるトークショーが行われた。

荻野目さんは審査を振り返って、いずれも共感を覚える素晴らしいエピソードだったと述べた上で、特に印象に残った作品として「いっ、て」（看護職部門・優秀賞）を挙げた。看護師が入院中の子どもと接している際、子どもが発した言葉の本当の意味を誤って認識してしまい、のちに本当の意味を知るという作品。「子どもが発した言葉について、あの時はこう思ったけれども後になってみたら、実は別の意味が込められていたんじゃないかと考えさせられました」。

また、荻野目さんは自身の看護エピソードについて、助産師との関わりを紹介した。初の出産で右も左も分からない状況で、助産師の存在に助けられたと振り返った。「新米ママさんにとって、助産師さんの存在はとても心強く、助産師さんのとの関わりは昨日のこのように覚えています」と話した。

その後、井本常任理事は助産師の活動の場について紹介。その役割については、「妊娠期から女性とその家族に寄り添い、望みが何かを把握し、それを実現する伴奏者」と説明した。荻野目さんはその言葉を受けて「とても大変な仕事ですよ。でも、そうした助産師さんの信念や技術に私たちは支えられていたのだと、あらためて感じました」と述べた。

さらに新型コロナウイルス感染症に話しが及び、井本常任理事は「波の高い低いはあるけども、医療の現場では極めて緊迫した状況が続いています。患者さんに最も身近なところでケアを提供している看護職は、自らが感染し、家族に感染させてしまうのではないかと不安を抱え、緊張しながら、日々、新型コロナウイルス感染症と向き合っています」と現場の状況を説明。荻野目さんは医療現場のひっ迫を防ぐには「私たち一人一人が感染しないようにすることが大切ですね」と決意を新たに、看護職や医療従事者を勇気づけるメッセージを込めて「ダンシング・ヒーロー」のパフォーマンスを行った。



Nursing Nowフォーラム・
イン・ジャパン

主催：日本看護協会・笹川保健財団

日本看護協会

会長あいさつ



日本看護協会会長 福井トシ子

2021年1月21日に開催いたしましたNursing Nowフォーラム・イン・ジャパンは、国内外から約5,300人の参加登録を頂くことができました。新型コロナウイルス感染症により、2020年5月から延期の上、ウェブ配信と形態を変えての開催となりましたが、皆様の関心の高さを実感しました。後援頂いた厚生労働省、外務省、文部科学省をはじめとする団体の皆様、及び開催に協力頂きましたNursing Nowキャンペーン実行委員会、都道府県看護協会、そして共催団体である笹川保健財団に深くお礼申し上げます。

本フォーラムは、「Nursing Now:看護の力で未来を創る」のテーマのもと、2019年より日本で取組んでいるNursing Nowキャンペーンの一環として開催いたしました。このキャンペーンでは、公共性の高い社会機能としての看護の重要性について理解を深め、看護政策の推進と看護の正当な評価や投資を獲得することを目指しています。その根拠として、持続可能な開発目標（SDGs）のうち、「健康・ジェンダー平等・経済成長」の3つに看護が貢献できるという英国のレポートがあります。日本においても、これらを好機ととらえ、看護が人々の健康にこれまで以上に貢献できるよう、看護界が一体となり取組みを進めています。

今、看護職には医療機関での看護、地域住民の保健活動などに加え、地域で暮らす全ての人々を支える健康な社会の醸成にも力を発揮することが求められています。これは、平常時だけでなく、社会が自然災害や今回の新型コロナウイルス感染症パンデミックなど、危機的な試練に直面した際により強く求められます。このようなグローバルな課題に対し、国内外からの演者を迎え、政策におけるエビデンスやリーダーシップ、地域における看護、安全・安心な社会の構築にむけた看護について、多面的に議論することができました。

現在、新型コロナウイルス感染症は、世界に大きな試練をもたらしていますが、凶らずもナイチンゲールから引き継がれた看護の力、看護の価値に光が当てられています。「Nursing Nowニッポン宣言」に看護職の皆様と、そして、関係する多くの皆さまと共に取組み、社会が求める役割を果たすことができる看護の未来を創るため、一步一步前進して参りたいと思います。

笹川保健財団

会長あいさつ



笹川保健財団会長 喜多悦子

フローレンス・ナイチンゲールが生まれた1820年の日本は、文政3年、幕末前だ。鎖国状態だったが、260年余の江戸時代、わが国は大きな戦乱なく、浮世絵、歌舞伎、浄瑠璃、文楽など爛熟した文化を堪能したと記録されている。が、経済を担う都市の繁栄の一方、地方農村部は疲弊し、各地で一揆が頻発した。国家発展の経過中、常に格差が生じ、貧困、差別、病や障害に苦しむ人々が打ち捨てられる。

ヴィクトリア女王時代の英国は産業革命を先導した当時唯一の先端工業化大国だった。その上流階級出身のナイチンゲールは、類まれな理性と向学心を持ち、あらゆる古典、今風にいうリベラルアーツを修得し、「男性でも」滅多に嗜まない多様な学問をも修得したという当時の女性、特に金持ちの令嬢としてはきわめて異端な方だ。が、統計学と公衆衛生的体系を駆使して、療養環境だけでなく大英帝国軍病院の改善に必要なエビデンスを提示し、さらにその制度化を政府に押し付けてもいる。たった一人の革命でもあった。ジェンダー時代の現在にも、これほどを成し遂げ得る令嬢はいない。

動物的に親が子を愛で、家族を慈しむことはあっただろうが、他人に対し、まして病者や貧困者への対応はどうだったか…今の科学的看護に至らなくとも、根源的な世話は誰がどう担っていたか？

ケアの根源を考えるべきが、ナイチンゲール生誕200年であろう。

それを記念しての“Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン”を共催させて頂けたことは、看護師人材育成に微力を尽くしてきたわが財団にとっては、同じく、2020年、WHO初の「世界の看護2020 (State of the World's Nursing 2020)」に財団事業が取り上げられたことと併せて大いに励みとなる。

本国際フォーラムにあたり、ご挨拶・ご講演下さった国内外の看護界リーダー諸氏に深甚の謝意と敬意を表す。医療活動のみならず、地域社会とそこで暮らす人々の健康の維持向上と生活にかかわる支援、そのための研究・教育に従事されている看護師各位に心からの感謝を捧げる。

ご後援いただいた厚生労働省、外務省、文部科学省と、本キャンペーン実行委員会、共催団体である日本看護協会に最大の感謝を捧げ、今後、より密接な連携の下に、「看護の力で未来を創る」取組みが推進されることを期待する。

最後に、笹川保健財団の名において、新型コロナウイルスパンデミックの第一線にあって、各地で24時間365日、人々を看・護っている世界の看護師諸氏に感謝と敬意を表す。

プログラム

12:30-14:00 オープニングセッション	
モデレーター：齋藤訓子（日本看護協会 副会長）	
導入	齋藤訓子（日本看護協会 副会長）
ごあいさつ	福島靖正（厚生労働省 医務技監）
	福井トシ子（日本看護協会 会長）
	喜多悦子（笹川保健財団 会長）
ビデオメッセージ	ナイジェル・クリスプ卿（Nursing Now 共同議長）
	エリザベス・イロ（世界保健機関（WHO）主任看護官）
	アネット・ケネディ（国際看護師協会（ICN）会長）
基調講演：立上る看護師：看護師がユニバーサル・ヘルス・カバレッジの課題に直面する中でのNursing Nowのストーリー	バーバラ・スティルウェル（Nursing Now 事務局長）
フィンランド、北欧諸国、ヨーロッパにおける看護師・助産師の年	ニナ・ハテラ（フィンランド看護師協会 会長）
日本の看護におけるエビデンスの活用・実践の可視化	手島恵（千葉大学大学院 教授）
シンガポールにおける地域看護	スウィーヒア・リム（シンヘルス・エグゼクティブオフィス・特別プロジェクト シニアディレクター、シンガポール看護師協会 前会長）
TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム	内田菜穂子（ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ Japan Community Impact マネジャー）
オープニングセッション振返り	齋藤訓子（日本看護協会 副会長）

14:15-16:15 分科会	
分科会1：トリプル・インパクトと政策	
モデレーター：手島恵（千葉大学大学院 教授）、荒木暁子（日本看護協会 常任理事）	
導入	
トリプル・インパクトと日本の看護	荒木暁子（日本看護協会 常任理事）
トリプル・インパクトと政策 褥瘡対策から特定行為研修に向けた政策研究	真田弘美（東京大学大学院 教授）
パネル・ディスカッション：エビデンスに基づく政策	
エビデンスと政策：エビデンスをどのように政策に活用するか	ティム・ゲスト（カナダ看護師協会 会長）
パネリストからの情報提供	カレン・マックゴワン（アイルランド看護師・助産師協会 会長）
	シン・ギョンリム（大韓看護協会 会長）
	マリア・アンジェリカ・バエザ・レヴェコ（チリ看護師協会 会長）
	ミルナ・アブディ・アブドゥラ・ドゥーミット（レバノン看護師協会 会長）
	クリスティーン・ダッフィールド（オーストラリア看護協会 会長）
意見交換	
まとめ・閉会	

分科会2：在宅看護と持続可能な社会～看護師が社会を変える～

モデレーター：喜多悦子（笹川保健財団 会長）、金谷益子（一般社団法人宝命 代表理事）

開会あいさつ・分科会概要説明・演者紹介	喜多悦子（笹川保健財団 会長）、金谷益子（一般社団法人宝命 代表理事）
「看護の年」とグローバルヘルスにおける課題：看護と在宅ケアの役割	ジュディス・シャミアン（前ICN会長、元VON会長）
女性のエンパワメントと保健制度の強化—看護・助産事業への投資—	マーラ・サーモン（ワシントン大学 元学部長、看護・グローバルヘルス教授兼公共政策・管理学助教授）
ケアの変容～看護の価値を測る～	アンドレア・パウマン（マクマスター大学 副学長）
看護師の地域社会介入～看多機の仕組みと実際～	沼崎美津子（在宅看護センター結の学校 管理者）
中山間地域における看護	大槻恭子（一般社団法人ソーシャルデザインリガレッセ 代表理事）
訪問/在宅看護から地域ケアへ～地域・コミュニティケア、プライマリ・ヘルス・ケアへのチャレンジ～	磯野祐子（一般社団法人 コ・クリエーション 代表理事）
ディスカッション・クロージング	

分科会3：災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けた看護の貢献

モデレーター：増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長）

趣旨説明 分科会の背景とねらい	増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長）
災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けて	室崎益輝（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 研究科長）
COVID-19対応からの教訓：イタリアからの報告	ウォルター・デ・カロ（イタリア看護師協会 会長）
パネルディスカッション：災害に強い社会に向けて看護職ができること	井伊久美子（日本看護協会 副会長）
	池田載子（大阪赤十字病院国際医療救援部国際救援課 課長）
	五十嵐ゆかり（聖路加国際大学ウィメンズヘルス・助産学 教授）
	濱舘陽子（国際協力機構（JICA））
	小原真理子（清泉女学院大学国際・災害看護学 教授）
	座長：増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長）

まとめ・閉会

16：30-17：00 クロージングセッション

モデレーター：荒木暁子（日本看護協会 常任理事）

分科会の振り返り	分科会1：手島恵（千葉大学大学院 教授）
	分科会2：喜多悦子（笹川保健財団 会長）
	分科会3：増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長）
Nursing Nowニッポン宣言	福井トシ子（日本看護協会 会長）
開会あいさつ	勝又浜子（日本看護協会 専務理事）

オープニングセッション

オープニングセッションは、Nursing Nowについての理解を深め、人々の健康な暮らしを支援する看護、医療提供の効率化に資する看護についての現状と期待について議論し、続いて行われる分科会につなげる目的で開催された。厚生労働省および主催者のあいさつ、世界的にキャンペーンを推進するNursing Now事務局、世界保健機関（WHO）、国際看護師協会（ICN）からのビデオメッセージ、及び国内外のスピーカー5名による講演が行われた。



モデレーター：
齋藤訓子（日本看護協会 副会長）

ごあいさつ

厚生労働省医務技監福島靖正氏は、看護職の更なる活躍は、国民の健康増進のみならず、経済発展、そして、女性がリーダーシップを担うことが多い職業の一つとして女性活躍の推進にも大きく寄与するものと認識しているとあいさつした。

主催者である日本看護協会会長福井トシ子は、グローバルな課題に対し、人々の健康に貢献できる看護について国内外からのエビデンスに基づいた議論を深め、「看護の力で未来を創る」第一歩としたいと述べ、笹川保健財団会長喜多悦子氏は、本フォーラムが日本の優れた看護、有能な看護職が他の国々の仲間と更なる交流機会を持つきっかけとなることを期待するとあいさつした。



海外からのビデオメッセージ

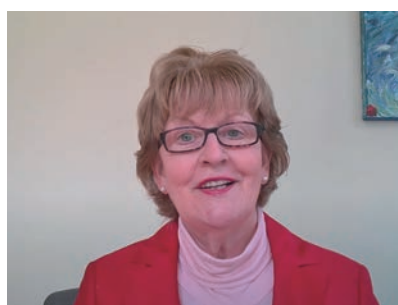
Nursing Now共同議長ナイジェル・クリspb卿、WHO主任看護官エリザベス・イロ氏、ICN会長アネット・ケネディ氏から、それぞれ、看護職の活動を後押しする力強いメッセージが届けられた。



ナイジェル・クリspb卿（Nursing Now共同議長）



エリザベス・イロ（WHO主任看護官）



アネット・ケネディ（ICN会長）

講演概要

● 基調講演：「立上る看護師：看護師がユニバーサル・ヘルス・カバレッジの課題に直面する中でのNursing Nowのストーリー」

バーバラ・スティルウェル (Nursing Now 事務局長)



現在、そして今後数十年間にわたる課題に対してユニバーサル・ヘルス・カバレッジを確保するため、Nursing Nowによる世界的活動の勢いをどのように継続すればよいか、そして看護師が目の前の課題にどう対応すべきかについて以下の通り発表した。

2018年に開始したNursing Nowキャンペーンは、世界の看護師の地位と看護に対する認知の向上を図ることを通して、世界の健康に貢献することを目的としている。2020年11月までに世界127以上の国で700以上のグループが設立され、キャンペーンが展開されている。

2020年はWHOが「看護師・助産師の国際年」と定め、看護の現状に関する国際的な報告書としては史上初の「世界の看護 (State of the World's Nursing : SoWN)」が発表された。WHOが看護にこれほど注目したことはない。WHOとICNによる看護の戦略的方針の策定、各国における向こう10年間の看護への投資、及び政策立案に供されるべき情報を得るため、SoWNの勧告に注目すべきである。各国の優れたデータも示されており、これらを通して、現在そして未来の日本の看護の状況を見通しておくべきであると強調した。

さらに、看護への投資は、健康・経済・ジェンダー平等への投資であり、看護のトリプル・インパクトにつながる。看護そのものが効果的で、費用対効果が高いだけでなく、その結果として健康な人を増やすことで経済の発展に寄与する。看護労働力の大半を占める女性が看護のキャリアパスを描くことで、ジェンダー平等な役割を果たす能力を身につけることができる。看護への投資は保健医療分野で最も価値があり、政策決定者はこれをコストとみなすべきではない。

さらに、看護職自身が、保健医療労働力全体における役割分担や業務分担について見方を変える時でもある。合理的な業務分担の方法を考え、看護師が資格を最大限に活用して働けるようにするためには、例えばアドバンスト・プラクティス・ナースとして働けるようにするための役割・枠組み・教育が準備されるべきである。

2021年にNursing Nowとして、データを示し、看護師に投資すべきだと訴え、その効果についての理解を得るための政治的なロビー活動を行うことに取組むべきだ。そのために看護職1人1人が影響力のあるリーダーにならねばならない。Nursing Nowでは、こうした影響力を持つ若いリーダーの育成に注力している。



● 「フィンランド、北欧諸国、ヨーロッパにおける看護師・助産師の年」

ニナ・ハテラ（フィンランド看護師協会 会長）

新型コロナウイルス感染症により、予定していた様々な行事が無くなる一方で、国内のみでなく、国を越えて地域が連携して看護職を支えるための取り組みや政策提言について以下の通り紹介した。

フィンランド看護師協会（FNA）は1925年に設立され、北欧・ヨーロッパ各国及び国際団体等とも連携している。2020年は設立95周年であり看護師・助産師の国際年でもあることから様々な活動計画があったが、新型コロナウイルス感染症により変更を余儀なくされた。FNAの研究によれば、コロナ禍において半数以上の看護師が転職を考えており、40%が疲れ果てていた。また全てを捧げ、自身の健康を危険にさらして働いてきた看護師は、政府や雇用者が新型コロナウイルス感染症への対応に基づくボーナスの支払いをしづっていることに失望を示した。これらを受け、FNAでは看護師の支援が今最も重要であると考えた。11月に会員のためのオンラインイベントを開催し、フィンランド大統領が看護師への感謝のメッセージを述べた。

北欧看護師協会（デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェイ、スウェーデン）はNursing Nowキャンペーンに参加し、特に主任看護官の存在とその影響に焦点化した活動を行っている。2020年は設立100周年記念大会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症のため2022年に延期された。

ヨーロッパ看護師協会連盟（EFN）は35のEU加盟国の看護師協会で構成され（FNAも参画している）、300万人以上の看護師を代表する看護専門職の独立した声である。「エボラ出血熱と新型コロナウイルス感染症からの教訓」報告書を発表し、EUにおける保健医療システムの強化、看護労働力の保護に向けた政策提言を行った。そのメッセージは、「私たち全員の備えが出来ない限り、準備が出来たとはいえない」である。Nursing Nowキャンペーンにおける優先事項は、看護教育と看護主導のクリニックの推進である。



● 「日本の看護におけるエビデンスの活用—実践の可視化」

手島恵（千葉大学大学院 教授）

慶應義塾大学病院における根拠に基づいた看護実践の体制整備、及び聖路加国際病院におけるマグネットホスピタル認証にむけたエビデンスの提示の事例、DINQLを活用したデータ提示による交渉や政策提言、日本看護協会の新型コロナウイルス感染症に関する記者会見での事例を提示しながら、データを介しての対話と協働の重要性について以下の通り述べた。

他職種との協働、チーム医療の推進、政策への提言のためにデータは必須であり、データを利用することで立場・国境・言語を越えて広く、多くの人に速く伝わる。世界の保健医療分野の労働力の59%を超える看護職には、学際チームの一員としての取り組みが求められている。

多くのネットワークや協働を通じて、看護職は世界の人とつながっている。不確かな今だからこそ、データを示し、対話し協働し、より健康な社会に向けての活動をしていかねばならない。

さらには、企業や研究者には、看護職が負担なくデータ収集できるような研究開発に期待したい。



● 「シンガポールにおける地域看護」

スウィーヒア・リム（シンヘルス・エグゼクティブオフィス・特別プロジェクト シニアディレクター／シンガポール看護師協会 前会長）

シンガポールでは高齢化の進展が、保健医療費や保健医療労働力に大きな影響を及ぼしており、保健医療を地域で行うための政策が推進されている。3つの鍵となる戦略は、保健医療を越え健康へ、病院を越えコミュニティへ（自宅に近いコミュニティでのケア）、質を越え価値へ（持続可能な保健医療のもとでの最良の価値のケア）である。地域においては、予防、在宅、終末期ケアを提供し、予防、慢性疾患のある高齢者を対象としたケア、複雑なケアが必要な高齢者を対象としたケアが提供されている。病院と地域をつなぐナビゲーターを育成すると共に、病院から地域への移行がスムーズとなるよう体制を整備している。スウェーデンのエスターモデルを活用し、自宅に近い場所でパーソンセンタードケアを進めている。さらに、高齢者のデジタル技術利用を推進すると共に、テレヘルスの導入も進められている。地域において活動する看護人材を確保するため、地域看護のコンピテンシーを定め、臨床キャリアマップも作成した。



● 「TOMODACHI J&J災害看護研修プログラム」

内田菜穂子（ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ Japan Community Impact マネジャー）

我が信条の第三の責任である企業の地域社会への責任に基づく社会貢献活動として、2015年から、災害看護に関する看護学生の専門知識の向上、及びリーダーシップ育成を目的とした「TOMODACHI J&J災害看護研修プログラム」を提供している。東日本大震災の復興支援の一環として、ジョンソン・エンド・ジョンソンがTOMODACHIイニシアチブのビジョンに共感したことから開始された。

本プログラムは、看護学生の専門知識と能力を高めると共に、自己肯定感を高め、将来リーダーシップを発揮できることを目指して、事前研修、米国研修、事後研修の大きく3つのプログラムから構成される。参加者は、自分で考え、行動することを徹底的に鍛えられる。2週間にわたる米国研修では、同時多発テロ、ハリケーンへの対応などの災害対応を行う施設を訪問し、座学と研修を行う。事後研修では、米国研修での学びをコミュニティにどのように還元するか計画をたて、実行していく。

メンターとなる教員と共に、ジョンソン・エンド・ジョンソンの社員も伴走者としてこの研修を支えている。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、看護学生がこれらの研修を受けることで、長期的に防災、減災につながる信じ、今後もこのプログラムを支援していくと述べた。



分科会1：トリプル・インパクトと政策

企画：日本看護協会

分科会1は、政策を推進していく上でインパクトを及ぼすエビデンスの重要性について検討することを目的とした。Nursing Nowのきっかけとなった「トリプル・インパクト」報告書が示した持続可能な開発目標（SDGs）の3つの目標（目標3「すべての人に健康と福祉を」、5「ジェンダー平等を実現しよう」、8「働きがいも経済成長も」）に看護職がこれまで以上に貢献し、看護職が健康な社会の醸成に関わっていくためには、様々な制度や環境を整えていくことが必要である。社会やSDGsへの看護の貢献、エビデンスを用いた政策推進の成功事例等を通じて、政策決定に影響を及ぼすエビデンスの重要性につき議論し、Nursing Nowキャンペーンの目標の一つである「政策実現に向けた政策・意思決定者へのエビデンスの提供」の意義を明らかにすることを目指した。

モデレーター：



手島恵（千葉大学大学院 教授）



荒木暁子（日本看護協会 常任理事）

● 「トリプル・インパクトと日本の看護」

荒木暁子（日本看護協会 常任理事）

Nursing Nowのきっかけとなった「トリプル・インパクト」報告書は、看護師が潜在能力を発揮することで、健康の向上、ジェンダー平等の推進、及び経済成長の発展に貢献することを示した。

日本の看護職がこれらのSDGsの3つの目標に対し、同じ方向性で取組むことができるようNursing Nowキャンペーン実行委員会で取組み方針を共有した。目標3の取組み方針である「住民の健康を支える看護モデルの構築」については、2040年頃の社会の将来像を見据え、地域の人々の健康維持・増進を図り、健康な地域社会づくりを進める看護の拠点を地域に整えていくことを目指す。目標5の取組み方針「可能性の拡大：より自律した専門職へ」については、看護が魅力的な職業となるよう、意思決定に参画できるポジションを確保し、看護が活躍できる環境をつくることで、若い世代や多様な背景を持つ人からも選択される職業とする取組みを行う。目標8の取組み方針「看護職のディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の推進」については、看護職が働き続けられる環境、及び働いたことへの適正な評価の獲得に向けた取組みをこれまで以上に強力に推進する。

日本で看護職がトリプル・インパクトをもたらすには、看護が適切に評価され、看護への投資を確保することが必要であること、そのためには、政策立案者に効果を確認してもらうためのエビデンスの提示が求められる。本分科会では、この点について議論を深めたい。

●基調講演：「トリプル・インパクトと政策 褥瘡対策から特定行為研修に向けた政策研究」



真田弘美（東京大学大学院 教授）

大学人としての立場、また、日本看護協会元副会長として政策に携わってきた立場より、看護の価値をデータで示すこと、政策研究の重要性について以下を述べた。

日本の褥瘡有病率は世界一低い。データを示したことによる政策転換、2006年の褥瘡ハイリスク患者への加算の新設が関係する。政策研究において、客観的に評価できる指標をもつことの必要性を実感した。「看護師の特定行為研修（以下、特定行為研修）」の対象となる行為のエビデンスについては、在宅での褥瘡をもつ患者のQOLの向上、診療の補助行為への看護師の自律/自立的な関わりという点から費用対効果を示していった。これらの実践により、保健医療費が年間約245億円削減されることが明らかになった。創傷の領域ではデブリードメントと陰圧閉鎖療法の2つについて、上述の研究によるエビデンスが示されたことが特定行為としての研修の開始につながる一助となったと考える。

現在は、特定行為研修修了者による実践の評価に向け、3年計画で研究を進めている。看護師が行う特定行為にどのような効果があるのか、客観的かつ定量可能な指標を用いて評価する。医師が実施する場合と同等の安全性だけでなく、看護を可視化しその価値を評価する指標を示し、そこにインセンティブを獲得することが重要となる。また、評価指標の確立は、看護師による特定行為の実践の促進、効果的・効率的な実施体制の構築、医療全体の効率化につながる。米国ではAdvanced Practice Nurse (APN) による実践の価値についての研究があるが日本にはないので、多くの人に研究に参加してもらいたい。

パネルディスカッション：エビデンスに基づく政策

講演：ティム・ゲスト（カナダ看護師協会 会長）



カナダ看護師協会は看護の視点や専門知識を活用し、重要な保健政策に影響を及ぼしている。全ての政策・アドボカシー活動は研究によるエビデンスに基づいている。

エビデンスに基づく看護、エビデンスが提供された意思決定（Evidence informed decision making）は、フローレンス・ナイチンゲールにより開始された。看護師はケアを提供するための最良の方法を継続的に検討することが必要であり、臨床実践家、教育者、研究者、管理者、政策立案者などの全ての看護師は、エビデンスが提供された意思決定及び実践が推進されるよう関係者と連携しなければならないことを強調した。

専門職能団体として、カナダ看護師協会が開発する全ての基準やガイドラインの基盤に、利用可能な最善のエビデンスを使用することに責任があり、看護研究と保健情報システムに対し予算をつけるよう、政府に対してロビー活動を行っている。また、薬物使用に関する規制等に対するハームリダクションの提言など、エビデンスが提供された健全な政策、規制、資格登録についてもロビー活動を行っていることを述べた。さらに、新型コロナウイルス感染症への対応事例において、看護師は、新たに示されたエビデンスへの対応が求められていることも述べた。

●**ショートプレゼンテーション：カレン・マックゴワン**（アイルランド看護師・助産師協会 会長）



新型コロナウイルス感染症の大きな試練の中で、看護師の役割はこれまでになく明白になった。保健医療サービスにおいて、看護師はしばしば過小評価され、自分の能力を最大限発揮して働くことができていない。また、政策や意思決定においてほとんど影響力を持たないことが多い。その結果、看護師の労働条件改善やリーダーシップ・スキルへの投資を得て、健康の向上、女性のエンパワメント、地域経済の強化というトリプル・インパクトをもたらすことができなくなっている。我々はコミュニティの一員であり、世界中で貢献し、今後もさらなる貢献を果

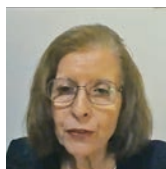
たしていく。より健康なコミュニティの実現に向けて協力していかなければならない。

●**ショートプレゼンテーション：シン・ギョンリム**（大韓看護協会 会長）



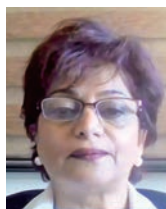
大韓看護協会が現在注力するのは、独立した看護法の制定、政府機関における看護部門の創設、女性のキャリア継続に向けた柔軟な勤務時間の導入、病院における新人看護師に対する指導者の設置義務化、看護報酬の再編成などである。看護報酬については、9,000ある健康保険報酬のうち、看護師に特化したものは約50と非常に少ないため、看護師に連動した報酬の再編成を政府に求めている。新型コロナウイルス感染症の危機は、世界的な連帯の必要性を明確に示している。エビデンスに基づいた看護政策についても国際協力で強化できると思う。各国の政策や経験が蓄積され、共有され、積極的に発信されれば、エビデンスに基づくより強固な看護政策の実現が可能になる。

●**ショートプレゼンテーション：マリア・アンジェリカ・バエザ・レヴェコ**（チリ看護師協会 会長）



チリのNursing Nowキャンペーンの目的は、看護リーダーシップの強化、一次ケアレベルにおける高度実践看護の実施、看護人材に関する研究である。チリの看護師の89%が女性で、20%が世帯主であるため、Nursing Nowキャンペーンを展開することがトリプル・インパクトの実現につながると述べた。病院やプライマリケア管理者への働きかけをはじめ、他の専門職と対話し、衛生規範の更新に向けて地域でキャンペーンの推進を行なっている。若い看護リーダーの育成を目指すナイチンゲール・チャレンジの推進も始めている。新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で、キャンペーンの推進が妨げられているが、看護師の役割を可視化する機会と考えている。看護への投資は、健康目標の達成だけでなく、教育、ジェンダー平等、雇用、経済成長の達成にも貢献する。

●**ショートプレゼンテーション：ミルナ・アブディ・アブドゥラ・ドゥーミット**（レバノン看護師協会 会長）



経済危機、爆発事故など2020年は大変厳しい年であったが、看護師は常に最前線で活躍してきた。一方で保健医療システムには看護の声が十分に届いていないという課題があり、看護が政策立案や意思決定に関与できるメカニズムが必要である。そのためには、看護職が政策立案の複雑さや働きかけの難しさをまず認識する必要がある。看護職があらゆるレベルの意思決定に関与するためにはアドボカシー活動が重要である。メディアの利用、医師や看護師などとの戦略的な連携、さらには、ネガティブな反応に負けず、一般市民なども巻き込み目的達成に向けて取り組むことなども重要となることを述べた。

●**ショートプレゼンテーション：クリスティーン・ダッフィールド**（オーストラリア看護協会 会長）



オーストラリア看護協会（ACN）は、保健医療ケアの拡大、安全な患者ケアの推進のため看護師のリーダーシップの発展をミッションとする。トリプル・インパクト報告書は、看護師のリーダーシップの開発について述べており、ACNのミッションの一つに合致している。幹部看護師は、人員配置と予算に関する意思決定のテーブルにつき、政策に影響を及ぼしていく必要があるため、幹部看護師を対象としたリーダーシッププログラムを新たに開発した。既存の新人、中堅向けプログラムと共にリーダーシップ開発を進め、政策への影響を及ぼしていきたいと述べた。

ディスカッション

パブリックビューイングを開催している神奈川県看護協会、愛知県看護協会、及び日本看護系大学協議会と意見交換を実施した。また、視聴者からチャットを介して寄せられたコメント・質問も取上げた。

●指定発言：花井恵子（神奈川県看護協会 会長）



看護協会として、看護職の声を大事にしている。看護職が何に困り、どう改善したいのかを踏まえた政策を実現するために、行政に要望書を提出しているが、その時のエビデンスの構築が難しい。データ収集は看護職に負荷がかかるので、どのようにしていったらいいか、どのようなデータ収集の方法があるのかで教授いただきたい。



●指定発言：三浦昌子（愛知県看護協会 会長）



課題は多いが、主体的に行動し政策を提言していくこと、エビデンスによる意思決定が重要であることを改めて認識した。政策を実行できる、リーダーシップをとれるリーダーを育成し、政策につなげていかなければならない。オーストラリア看護協会長の発表でリーダーシップの育成に触れられたが、大学生の時から政策やリーダー、マネジメントの教育を始めた方がいいのではないかと。看護職がもっと積極的に考え、発言できるように、まず何をすべきか。

●指定発言：山本則子（日本看護系大学協議会 代表理事）

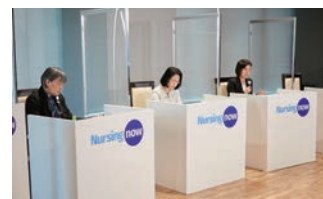


看護系大学として政策に貢献する看護研究の推進に責任があると改めて感じるとともに、4つの学びを得た。①エビデンスをつくり政策につなげるには、複数組織によりデータをつくるのが重要であり、そのための高度な研究技法を備えた人材育成が必要、②看護の本質を大切にしたいエビデンスとするには、従来のエビデンスベーストプラクティスの考え方に基づく介入研究のほかにも多様な研究方法を学び、エビデンスのあり方を開拓できる人材育成が必要、③医療がグローバルな課題となった現代、日本の看護は海外と緊密に連携し、効果的なエビデンスの構築と発信に努めなければならない、④看護の声を的確に政策や意思決定過程に反映させ、強力なネットワークを形成できるリーダー育成に看護系大学は責任がある。その上で、大学と現場が結びついて研究をすすめていくにはどうしたらよいか。

演者・モデレーターからのコメント

データ収集、研究やエビデンスの構築に関し、以下の意見が出された。

- 効率的なデータ収集により時間をかけないようテクノロジーを活用する
- 現場のデータが自然に蓄積されていくような全体的な仕組みを構築する
- 大学・現場・職能団体が協力して研究を進める
- エビデンスを構築していく仕組みが現場にもわかるようにする
- 現場に還元するための研究ということを教育していく
- 素晴らしい技術を開発した場合、現場で使ってもらうための普及のための研究をきちんと行っていく
- エビデンスとプラクティスのギャップを埋めていくための研究の方法論もとりいれていく



モデレーターによるサマリー

分科会1での議論を通じ、看護が持つ力を発揮するための環境を整えるには、声を上げ、声を届けていくこと。そのためには、リーダー的の職位につき、意見を述べ、意思決定に参画すること。政策策定者・意思決定者が効果を確信するためのエビデンスが求められていること、が明らかになった。

これらを実現していくには、誰かが、ではなく、一人一人が声を上げ、必要な場所に、必要なエビデンスを届けていくことが必要となる。

分科会2：在宅看護と持続可能な社会 ～看護師が社会を変える～

企画：笹川保健財団

協力：日本訪問看護財団、全国訪問看護事業協会

看護師は、保健医療分野だけでなく、人々の生活にも関与すべき責務がある。世界各地で進行する高齢化を鑑みると、地域とその住民のケアと健康の維持増進への看護師の関与はより重要になる。特に、プライマリヘルスケア（PHC）の理念に基づく住民の健康意識の変革、医療資源の適切・効果的な活用による持続可能な社会の実現・SDGsの達成には、看護師の活動が重要となる。

分科会2では、在宅看護の長い歴史を持つカナダから、その実践者と、グローバルヘルスの観点から看護を追求する研究者が、アメリカからは、途上国での看護師自立支援を行ってきた教育者がそれぞれ見解を解説し、国内からは、笹川保健財団が行う「日本財団在宅看護センター起業家育成事業」を修了後起業した3名が「カンタキ」および地域活動を報告し、最後に、今後の地域社会における看護師の役割と可能性を論じた。

モデレーター：



喜多悦子

（笹川保健財団 会長）



金谷益子

（一般社団法人宝命 代表理事）

●「看護師が社会を変える 看護師によるソーシャルイノベーション」

喜多悦子（笹川保健財団 会長）

日本は、国民皆保険というSDGsを先取りする制度が実践されてきたが、超高齢化・少子化そして疾病構造の変化が進行した。保健医療費増大と生活様式の変化への対応が必至である。治療からケアへ、施設医療から地域在宅療養へ移行する中、住民の意識変容は遅々として進まない。看護活動は、施設医療での活動のみならず、地域での必要性が高いが、就業看護職に占める訪問看護従事者の割合は3.5%に過ぎない。2014年、笹川保健財団は、在宅・訪問看護事業所を継続運営できる看護師育成を始め、現在、全国25都道府県で73か所の「日本財団在宅看護センター」が多様な保健専門家と連携しつつある。財団は、同時に、在宅看護のエビデンスを蓄積し、看護師の地域活動を支えることを通じて地域の強化と看護師による社会的処方への在り方を求めている。

●「看護と在宅ケアの役割」



ジュディス・シャミアン

（前ICN会長、元VON〈120年の歴史を有するカナダ最大の地域看護事業体〉会長）

2020年WHOが発刊した「世界の看護（State of the World's Nursing）」報告書には、看護師の重要な10の活動が記載されており、その一つに「連携が最大の要である」とある。人々を支援し看護を促進するためには、病院だけでなく在宅や地域での連携が重要である。

WHOテドロス事務局長は、看護師はヘルスケアチームの要であり、地域を基盤とした新たな保健モデルの開発や、健康促進、予防など地域を支える重要な役割を担っていると発言し、ナイチンゲールは、病院という存在は近代化、文明発達の間地点に過ぎず、全ての病人たちは地域ごとの看護師を持つことを願うと述べているように、看護師の地域における活動は非常に重要である。

在宅チームは病気、障害のある人々をはじめ、家族、看護師、地域の保健医療の従事者や地域のボランティアの人々等様々な人々から構成されている。VONでは毎日9,000人の一人暮らしで料理ができない人々へ健康福祉担当者が食事を提供していたように、どんなに素晴らしい看護師や家族がケアを提供したとしても、栄養状況が悪ければ、それらのケアは意味がないものになる。このように、在宅チームが一丸となる必要がある。その中で、看護師は連携を促し、アセスメントや教育、サポートを提供することが求められる。

在宅看護師に求められる新しい役割は、緊急事態や有事の対応、人々が自身の健康を自主的に守ることができるようになる為のセルフケアのサポート、地域システムの強化等がある。在宅看護や地域看護は、救急看護や心疾患看護等のように、1専門領域として専門性を強化する必要がある。そして、在宅看護師は、政策アドバイザーや、地域のパートナー、産業/企業のパートナー、研究者や教育者等として役割の拡大が期待される。

●「女性のエンパワメントと保健制度の強化 - 看護・助産事業への投資 -」



マラ・サーモン (ワシントン大学 元学部長、看護・グローバルヘルス教授兼公共政策・管理学助教授)

国際救援や経済的発展を促す投資において、女性の地位向上の為、女性の起業が投資の対象とされているが、農業や商業が多く、ヘルスケア関連では少ない。また、女性の健康や出産サービス提供を通して、女性を支援していても、サービスを提供している女性たちのウェルビーイングや、自身が企業を運営し活動していく事に対しては、十分に投資がされていない。

看護師や助産師自身が運営する企業は、他のコミュニティ機関と連携することが多く、住民との地域連携の強化に加え、看護・助産師自身の社会的地位の向上に貢献している。近年、世界的に看護師や助産師が、目覚ましい成果をあげていることは明らかだが、これらの活動は看護師や助産師以外の人により運営されていることが多い。看護師や助産師の活動を最もよく知っているのは看護師自身であり、看護師や助産師の企業を、他人ではなく、自身が運営するためにどうしたら良いか検討が必要である。

看護師や助産師の起業の可能性の向上・促進するためには、起業促進に関するモデルを学ぶこと、ネットワークやパートナーシップを構築すること、リーダーシップとビジネストレーニングが重要である。特に重要なことは、分野を超えたパートナーシップを結ぶことであり、それなしでは事業の開始も継続も実現できないことがある。

私たちは看護師、助産師、医療専門家として、各責任を果たしていくこと、効果的なコミュニケーションやクリエイティブであることが必要であるが、何よりも重要なことは、相手を気遣い、思いやることを忘れてはならない。

●「ケアの変容～看護の価値を測る～」



アンドレア・バウマン (マクマスター大学 副学長)

看護は14世紀にまで遡る古くからある仕事であるが、その内容や役割は変化を続けており、職業として確立したのは日本もカナダも1800年代後半である。看護は生活や社会に影響力の大きい職業だが、現在も充分なリソースの確保に苦戦している職業でもある。

日本の高齢化は長いこと世界中で議論されていたが、今では西欧諸国が追いつきつつあり

世界問題になっている。社会の高齢化が進んでいる為、看護師が提供する高齢者へのケアが社会全体の安全性を示すものと言える。カナダの高齢化率は2020年には18%になり、今後更に高くなることが予想され、解決策の1つに移民が考えられている。これはカナダの広大な面積に人口が分散していることに起因しており、移民がなければ人材不足で崩壊するとされている。

看護師は現在、新型コロナウイルス感染症の対応の最前線に立っている。カナダの看護研究によると感染予防策やPPEの装着により、看護師の仕事は1シフトにつき20分～2時間増えたと報告されており、一旦感染症が発生すると、看護師に非常に大きな負担がかかることが分かる。危機的状況下では、一専門家集団だけでなく、多職種間の相互協力が必要であるが、看護師は平時より連携を強化し、共に働くことを促進しており、多職種を繋ぐという非常に重要な役割を果たしている。さらには、チームを導き、団結させるようなリーダーシップが求められ、特にスタッフが前進できるように背中を押してくれるリーダーが求められている。

看護の価値の測定は非常に重要である。その為、看護を明らかにするようなコストやケア提供に影響を与える要因を理解し、その変化に対応するデータと評価基準をもつことが大切である。一方で、看護の定義が国によって異なる為、看護の価値を測ることは非常に困難な現状がある。

看護師はより複雑化するケアの最前線に立ち、ケア提供を支える役割とモデルの統合に重点を置かなければならない。またリーダーシップを強化し、看護師が政策や国の決定に関与し、権限を持つことが必須である。

●「看護師の地域社会介入～看多機の仕組みと実際～」



沼崎美津子（在宅看護センター結の学校 管理者）

超少子高齢多死社会において、多様なニーズに応えられる看護への期待がある。看護小規模多機能型居宅介護（看多機）は、安心して暮らせる地域社会づくりを看護師が中心となり支える仕組みとして、利便性が高く、点から面で支える看護として在宅の限界点への挑戦ともいえる。

看多機「在宅看護センター結の学校」では、各関係機関との連携を強化することで幅広いサービスをカバーし、安定した経営を行っている。特に医療機関、他職種と積極的かつ柔軟に連絡を取り合うことで安易な救急車要請を避けることができている。利用者の自宅及び看多機における「在宅看取り」は直近で70%である。看護師が主導した他職種連携において、利用者の意思決定を支援し、状態に合わせた柔軟なプランを取り入れたことで、自宅（在宅）看取りが多くなった。このことは、社会保障費削減にも寄与すると考える。

これからの看護は、地域社会に参入すべきである。地域の中で、いつもの暮らしを保ち、最期まで安心して生きられることへの支えとなる。疾患や障害を持つ人々も生活者であることを踏まえた日常生活の視点から専門的に関わる。家族看護の視点から、地域住民（ケア提供者）の健康の質低下を予防する啓発を行う。入退院支援や退院調整機能を他職種と連携し、地域社会を産まれる前からグリーンケアまで共に支える仕組みをつくる。すなわち、地域共生社会の構築に積極的に関与が必要である。

●「中山間地域における看護」



大槻恭子（一般社団法人ソーシャルデザインリガレッセ 代表理事）

山に囲まれ、谷間に町が点在し、街の空洞化により空き家の増加、病院や診療所の縮小、医師の高齢化や減少が進んでいる地域で看多機を運営する。

看多機周囲にある土地を活用して利用者が農業をするなど、これまでの暮らしを崩さないよう看護している。特に、口から食べることに力を入れており、天気の良い日は中庭で食事を取るなど、イベントを実施することで食事を華やかにする工夫などを行い、治療（経管栄養・点滴）から

食べるケアを提供するようにしている。利用者の自宅、看多機での看取り率は約70%。

一般の人を対象としたオーガニックレストランを併設し、人口減少の著しい中山間地域の活性化を行い、福祉財源や働き手の課題にも取り組む。

看護師は観察力・考察力があるため、街づくりの意識を持つことで人々の暮らしが豊かになるのではないかと、今後、多くの看護師が地域に出て活躍することが望ましいと考える。

●「訪問／在宅看護から地域ケアへ」



磯野祐子（一般社団法人 コ・クリエーション 代表理事）

「地域まるごとケア」（老や病を支えるための医療・介護と連携し、地域コミュニティの中で支え合いうまくつながり合うこと、仕組みではなく地域の人々と時間をかけてつくりあげていくもの、地域包括ケアよりも更に広いつながり）という考えに基づき「地域まるごとケアステーション川崎」を立ち上げた。

訪問看護から地域ケアへ、ケアの視点で地域を看るようにし、地域資源（ヒト・モノ・コト・場）を活用し、看護と福祉を融合させ地域マネジメントを行った。

開業地である大都市部の神奈川県川崎市には、複数科の受診によるポリファーマシー、適切なケア提供がされていない、地域・暮らしの中でのケアが医療に偏る等の課題が存在していると考えた。地域でのケアを継続するため、ケアに携わる職種だけでなく、対象者のコミュニティや文化を使ったケアを活かした統合ケアマネジメントを実践している。

引きこもりや生きづらさを抱える人が、地域福祉へ移行する際の「つなぎ役」が不足していると考え、訪問看護の移動中に気になる人やホームレスの人に挨拶や対話をすることで、関係性を築き支援に繋げるようしている。

「地域の中でともに暮らし、ゆるいつながり」を目指し、ケアで地域の未来を育んでいきたい。

●ディスカッション：これからの看護について

海外演者は、「起業家育成事業」修了者の地域社会に対する強い責任感、看護力を生かした地域ケアの拡大、地域におけるリーダーシップの発揮の点から、本活動が全国に広がることで、多くの人々が受益者となることを願うと述べた。また、起業家育成事業は、持続可能な在宅看護センターの開設を可能にし、再現性があることを評価するとともに、起業家間のネットワークの構築が非常に大きな強みであり、将来に役立つものであることを指摘した。



新型コロナウイルス感染症の状況下でのサービス継続に関して、医療職種間以外の連携の重要性を述べ、世界の看護師が手をつないでパンデミックに立ち向かっていく必要性が述べられた。

最後に、主催者である笹川保健財団会長喜多より、現在の不安定な世界において、普遍的で人道的学問である看護は、誰しもが健康維持をするために貢献することができる唯一のツールであり、世界の看護師が緊密に連携し、個人、地域、世界の健康を推進してほしい、とディスカッションを締めくくった。

分科会3：災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けた看護の貢献

企画：災害健康危機管理WHO協力センター／兵庫県立大学地域ケア開発研究所
企画・実施協力：日本赤十字社医療事業推進本部看護部、WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター／聖路加国際大学、日本助産師会、国立国際医療研究センター

災害は、気候変動や急激な人口増加と都市化の進展、社会的・宗教的対立などにより、世界的に発生頻度、規模ともに深刻さを増している。2015年に国連防災世界会議において「仙台防災枠組2015-2030」が採択され、この中で保健医療分野の取組みの重要性が示された。ICNは、所信声明において、災害リスクの予防・削減において、看護師の関与が不可欠であると述べるとともに、「仙台防災枠組」の支持を表明している。日本は、自然災害の多い国であり、災害への取組みにおいて世界をリードしている。看護分野においても、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大規模災害を経験する中で、災害リスク削減・対応・復旧のあらゆる段階で、人々の生命を守り健康な暮らしを支援する総合的な実践のあり方を内外に示してきた。また、世界が直面している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応においても、最前線で人々の命と生活を守ることに尽力している。このような背景のもと、災害に強いコミュニティづくりに向けて何が必要か、また、安全・安心な社会の構築に向けて看護がどのように貢献できるのかを議論した。

モデレーター：



増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長）

● 基調講演：「災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けて」



室崎益輝（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 研究科長）

災害が巨大化する中、災害に強い社会を作って行かなければならない。災害を抑え込むのではなく、共生をはかりながら被害が少しでも軽くなるようにする減災という考え方がある。減災では、空間、時間、人間、手段といった切り口で足し算していく。重要となってくるのが、コミュニティ防災である。新型コロナウイルス感染症が拡大する中の豪雨災害において広域支援が困難であった経験から、身近な人による支援に焦点があてられた。一つ一つの災害への対応も必要だが、日常からしっかりしたコミュニティを作ることが大切である。国や自治体は一律の支援はできるが、人に応じた支援ができるのはコミュニティである。また、ファーストエイド、即時対応ができるのもコミュニティである。その地域に応じたコミュニティでの防災計画が全国で進んでいる。

消防士、医療専門家、社会福祉士などの専門性を持った人たちが、コミュニティの中で住民と連携してい

くことが必要となる。地域に“入っていく”のではなく、地域に根ざした対応を出来る人が存在する社会をつくらなければならない。

●「COVID-19対応からの教訓：イタリアからの報告」



ウォルター・デ・カロ（イタリア看護師協会 会長）

イタリアでは、第一波の際に保健医療従事者の10%以上の陽性が確認され、その45～50%が看護師であった。国家的な災害への備えはあったが、新型コロナウイルス感染症への対応では様々な変更を余儀なくされた。深刻な看護師不足が生じ、国内の軍、退職者、NGO、ボランティア、新卒看護師はもとより、他国からも支援を得た。病院再編も行われ、新型コロナウイルス感染症専門病院やフィールド病院が設置された。最大の課題であったのは、第一波における集中治療病床の不足である。通常の病床を閉鎖し、集中治療病床を設置したが、慢性疾患やがんの患者の治療に影響を及ぼした。

もともと政府は、経済危機の中で保健医療システムを重視せず看護師不足が生じていた。現在は、看護師等の増加計画を進めている。看護職をはじめとする医療従事者に対するメンタルヘルス支援も課題だ。看護師70人が亡くなり、そのうち5人は自殺である。新型コロナウイルス感染症への対応では、自身や家族等への感染への不安だけでなく倫理的ジレンマにも対峙した。病床や人工呼吸器の不足から若く、健康的な患者が優先され、イタリア看護師協会は高齢者を守るためのキャンペーンを行った。

メディア等が看護師をヒーローとして取り上げ、看護のイメージが変化したことはプラスの側面である。今回の経験で、人材不足、資源不足の中での就労など、多様で緊急的課題への迅速な対応が必要であることを学んだ。看護教育の見直しを図ると同時に、政策レベルにおいて看護師の役割とリーダーシップの向上が必要である。

●パネルディスカッション「災害に強い社会に向けて看護職ができること」

●「『災害支援ナース』等、職能団体としての取組みと貢献」井伊久美子（日本看護協会 副会長）



阪神・淡路大震災をきっかけに、都道府県看護協会と日本看護協会における災害時の支援のネットワークが構築され、災害支援ナースの派遣が行われている。職能団体として、被災者でもある被災地の看護職の健康や安全を守ると共に、地域の医療提供体制を守るための役割がある。東日本大震災では、要望活動、災害支援ナースの派遣、被災地の看護職の実態調査、看護職確保支援などを実施した。

災害支援ナースは、看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する。2020年3月末時点で10,355名が登録されており、必要時、都道府県看護協会と日本看護協会が連携し、3つのレベルを設けて派遣している。

大規模災害が頻発・激甚化する中で、看護協会は被災地の支援ニーズの把握や、災害支援ナースの安全確保等の課題がある。また、日本看護協会が被災した際の対応も考えておかなければならない。災害時看護支援活動の体制および機能強化に向け、今後も皆様の声を聴き、職能団体として看護職を守り、必要な政策提言を行っていく。

●「国内外の災害救護における看護の貢献」 池田戴子（大阪赤十字病院国際医療救援部国際救援課 課長）



赤十字救護班による支援活動を主として行われてきた国内救護活動は、阪神・淡路大震災を契機に災害看護の重要性が再認識され人材育成や資材確保が開始され、日本赤十字として、緊急対応ユニットを設置し大規模災害に備える体制へと強化された。

孤独死という問題に端を発し、復興期の地域看護の課題も明らかになった。また、東日本大震災では、多くの組織から医療チームが派遣され、活動地域も広いことから、コーディネートの役割や地域の人々の日常の状況・問題を知る保健師の活動が重要となった。メンタルヘルスや慢性疾患の課題に対して、看護職が避難所や仮設住宅で長期にわたり活動した。その結果、熊本地震での地域のニーズに応じた活動につながった。看護師がチーム横断的に一緒に支援活動を行う中では、情報の共有、活動期間や方針の違いによる連携の難しさが課題であり、地域の看護職がリーダーシップを発揮し、派遣されたチームを活用することが求められる。

国際救援活動では多くの場合、必要物品を全て準備しての長期の活動となる。医療支援を行うとともに、現地スタッフのトレーニング、早期回復・復興にむけたアセスメントも行う。看護職もリーダーの役割を担うが、看護職の調整能力が活用できる。

●「東日本大震災での女性と母子の支援活動から」 五十嵐ゆかり（聖路加国際大学ウィメンズヘルス・助産学 教授）



東日本大震災では女性支援活動を行った。避難所における清潔維持の困難、女性特有の健康問題に対する情報不足、必要物品の不足、治安の悪化による犯罪の可能性といった課題が明らかとなり、女性に必要な衛生用品をいれたパックの配布を行った。災害時には女性特有の症状発現も予想され、また、多くの場合、リーダーシップを発揮するのは男性であり、女性は弱者になりやすいという課題もある。

「仙台防災枠組」では、“より良い復興（Build Back Better）”という考え方が盛り込まれた。災害を見越して日常をどのように過ごすかという視点が必要となり、“備えが復興につながる”という意識変化が必要である。例えば、自助の一環で健康を維持するためのセルフケアを促すことがある。これにより災害時も健康を保つことができる。共助としては、シミュレーションの重要性を強調する。また、支援活動に従事した人がその経験を伝え、備えにつなげていくことも必要である。さらに、要配慮者の情報共有を行い、備えを強化する。Build Back Betterの視点をもった看護活動が、災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築につながる。

●「企業の自主防災組織と看護の協働～首都直下地震に備えて～」 濱舘陽子（国際協力機構（JICA）・元東京医科歯科大学大学院）



平日の昼間、首都直下型地震が発生した場合、東京都では520万人の帰宅困難者が発生すると予測されている。千代田区には2004年に設立された自主防災組織があり、2018年3月時点で94の企業等が加盟する。3か月毎に集まり、毎年帰宅困難者訓練、医療連携訓練なども実施している。一方で、帰宅困難者受入れ後の生活や健康支援について検討が行われてこなかったため、帰宅困難者が一時滞在施設で安心、安全に過ごせることを目標に看護職として協働した。

企業内や一時滞在施設的环境を整え、心身ともに健康に過ごす観点から防災担当者に関わった。発災3日後を想定した机上訓練を実施し、健康や生活の視点の必要性を認識した。一時滞在施設の滞在者カードの作成にも関わった。企業が帰宅困難者の安全な受入れと災害後も持続的に安定した事業継続とを両立するためのツールとしての充実を図ることができた。

企業の災害対策において看護は、災害時の健康や生活のイメージ化、自己効力感を高める支援、近隣企業

とのコミュニケーションの支援、行政機関との連携への支援、他組織と協働することへの支援に力を発揮できる。さらには、企業の中からのアプローチとして産業保健師の活動についても検討する必要がある。

●「まちの減災ナースの養成 地域と共に減災に取り組む看護師」小原真理子(清泉女学院大学国際・災害看護学 教授)



「まちの減災ナース」の役割は、静穏期の減災活動に行政と連携して取り組み、災害発生時には災害支援活動および市町村行政・地域住民とともに被災地住民の健康と生活の支援（要配慮者のトリアージ、避難所の健康調査、自宅避難者の安否確認と健康調査等）に取り組むことである。日本災害看護学会が認証する指導者が育成するもので、現在3期生が受講中。1・2期生からは、静穏期の地域の仕組みについての理解が不可欠で、静穏期から地域の人たちと顔の見える関係性を構築するべきである、との学びの声がある。

今後は、指導者の学会認証の拡充が重要課題である。全都道府県に指導者を養成し「まちの減災ナース」を育成していく必要がある。指導者が行政・医療・自治会との連携・協働のキーパーソンとなり、顔の見える防災・減災・備災活動を行っていく。さらには、コロナ禍における役割を探求していくことにも取り組む。

●モデレーターによるサマリ

現在の新型コロナウイルス感染症の拡大も災害の一つと考えられる。地震や水害とは異なるが、看護が果たすべき役割は、共通する点が多い。また、看護職は、平時はもちろん災害時にも不可欠な存在であるが、看護職の活動が社会に十分に見えていないことで、看護職の力が安心して安全な社会の構築に上手く活用されていない可能性がある。看護職は個々の生活者に寄り添い、社会やコミュニティの中で連携や団結の鍵になれる存在であると思う。これまでの災害での活動実績や経験から得られたことを、看護の中だけに留めず社会に発信して示していくことで、コミュニティと共に災害に強い社会に向けて取り組むことができるのではないかと。





クロージングセッション

クロージングセッションでは、分科会モデレーターによる各分科会のサマ리를発表した後、日本看護協会会長福井トシ子よりNursing Nowニッポン宣言を公表し、閉会した。

●分科会サマリ

分科会1：手島恵（千葉大学大学院 教授）

看護職一人一人が声を上げ、必要な場所に必要なエビデンスを届けること、そのためにエビデンスの構築が必要であることを報告すると共に、意見交換においてデータの収集・集積をどのようにして行っていくか、また、リーダーシップやデータサイエンスを学ぶのは、就職してからではなく、基礎教育において強化する必要があること等が議論された。

分科会2：喜多悦子（笹川保健財団 会長）

分科会での議論を通じて、治療の場での看護は確立しているが、地域のケアの場での看護の働きはまだ十分に確立していないと感じた。公平・公正・正義を包括した看護が確立されることが必要である。また、看護職には、地域のケアの現場において、住民としっかりと話し、住民が自身の健康をどのように考えていくかの支援に力を注ぐことが期待されていることが共有された。

分科会3：増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長）

看護職はこれまで災害において多様な活動を行ってきたが、いずれの災害においても、果たすべき役割には多くの共通点があり、それは新型コロナウイルス感染症への対応にも共通する。平常時にも、災害時にも看護職は不可欠な存在であるが、看護職自身も守られなければならないこと、平常時から災害時も見据えた活動を行い、コミュニティの一員として関わるのが大事であること、さらには、専門職として看護ができることを社会に発信していくことが災害に強い社会の構築につながる事が確認された。

●Nursing Nowニッポン宣言

「Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン」において、私たちは政策におけるエビデンスの重要性、地域における活動、災害への備えと対応につき議論しました。社会がどのような状況下にあっても、看護職は、人々の健康はもとより、地域の健康文化の醸成、社会の発展にも貢献する力を持っていることを再認識しました。私たち看護職の活動・実践は、世界が目指す持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）達成の中心となるべきものです。看護職が持つ力をより積極的に活用すべきだという認識の下、私たちは一丸となって、継続的に取り組むことを以下に宣言します。

- 健康な地域・健康な社会づくり、人々の生涯を通じた安心・安全で健康な暮らしに、これまで以上に貢献します。
 - 看護職が社会のニーズを満たし、あらゆる場でその力を十分に発揮できるよう、実践から政策まで、それぞれの変革を推進するための意思決定に参画します。
 - 利用可能な最善のエビデンスに基づく、よりよい意思決定に寄与するため、幅広くエビデンスの集積に取り組みます。
 - これらの日本における取り組み・成果を世界と共有し、世界的な目標であるSDGsの達成、世界の人々の健康向上に尽力します。
- We will contribute even more than ever to the creation of healthy communities and societies, and to the realization of safe, secure, and healthy lifestyles for all people throughout the lifespan;
 - We will participate in the decision-making process to promote the respective transformations from policy to practice to enable nurses to meet social needs and maximize their abilities in all settings;
 - We will endeavour to accumulate a broad spectrum of evidence to contribute to better decision-making based on the best available evidence, and;
 - We will share Japan's efforts and achievements with the world, striving to achieve the global SDG targets and the improvement of the health of people around the world.



●閉会あいさつ



勝又浜子（日本看護協会 専務理事）

本フォーラムは閉会するが、日本において看護30団体で構成されるNursing Nowキャンペーン実行委員会が推進するキャンペーンへの取り組みは6月末まで続く。参加者の多くの方がこのキャンペーンに参加・推進くださることを期待している。

Nursing Now

キャンペーン実行委員会参加団体の取組み紹介

Nursing Nowキャンペーン実行委員会の30団体は、それぞれの活動テーマを定めてNursing Nowキャンペーンに取り組んでいる。各団体の取組み状況を以下に掲載する。

※当初はNursing Nowフォーラム・イン・ジャパンのイベント会場において、各団体の活動紹介をポスター展示にて行う予定であったが、ウェブ開催に変更となったことを受け、以下をスライドショーにてイベント休憩時間に配信・紹介した。

※これらはNursing Nowの特設ウェブサイトにも掲載している。

公益社団法人 日本看護協会

日本看護協会のNursing Nowキャンペーン： 看護の力で健康な社会を！

経験やアイデアの共有

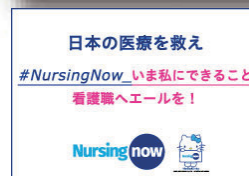
- ✓ 国際看護師協会 (ICN) やNursing Nowウェブサイトでの日本の経験の共有
- ✓ Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパンの共催
- ✓ 特設ウェブサイト・SNSの活用 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/

専門職としての主張

- ✓ 持続可能な開発目標 (SDGs) に関する目標の共有
Nursing Nowのきっかけとなったトリプルインパクト報告書は、SDGsの3つの目標(3.すべての人に健康と福祉を、5.ジェンダー平等を実現しよう、8.働きがいも経済成長も)に看護の発展が貢献すると結論づけました。キャンペーン推進に向け、日本における目標を共有しています。
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/
- ✓ 新型コロナウイルス感染症対応における看護の声の発信・社会への働きかけ
- ✓ 第10回「忘れられない看護エピソード」Nursing Now賞の設置(「看護の日・看護週間事業」との連携)
<https://www.nurse.or.jp/home/event/simin/episode/10th/index.html>

キャンペーンの認知度の向上

- ✓ 様々な事業におけるキャンペーンの周知・普及活動
- ✓ 看護を支える活動パートナーの企業のキャンペーン協力
- ✓ チラシの配布、ポスターの掲示、Tシャツ・グッズ等の作成、JNAピルクリスタルコーンの装飾
- ✓ Nursing Now公式ソング「元気の歌」 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/song/
- ✓ テレビCMの作成 https://www.nurse.or.jp/home/event/simin/30th_drama/index.html



公益社団法人 日本看護協会

Nursing now

日本看護連盟



公益社団法人 日本助産師会

Nursing Nowキャンペーンへの取組状況

1) COVID-19関連 主な対応について（2020年～）

- ・ ホームページでの情報発信（会員・助産師職能向け、妊産婦向け）
- ・ 厚生労働大臣宛要望書提出（予算措置、給付型支援）
- ・ 都道府県助産師会事業活動支援金の追加支援
- ・ 厚生労働省事業への参画（妊産婦向け電話相談ダイヤル、ビデオメッセージ、科研事業支援）

2) その他の取組み（2020年～）

- ・ 研修会オンデマンド配信（2020年10月20日～2021年10月31日）
- ・ オンラインによる両親学級（各都道府県助産師会等）
- ・ 周産期専門の訪問看護ステーションモデル事業開始予定
- ・ 助産師の声明 コアコンピテンシー改訂作業（2021年5月頃改訂予定）



オンライン母親学級@沖縄県

全国保健師長会



全国保健師長会

Japan Association of Public Health Nurse Directors




- 全国保健師長会Webサイトに「Nursing Nowキャンペーン」実行委員会特設Webサイトへのリンクの設定と、2021年1月21日にWEB形式で開催される「Nursing Now：看護の力で未来を創る」のお知らせを掲載し、周知活動を行っています。
<http://www.nacphn.jp/>
- 会員へメール配信し、「Nursing Nowキャンペーン」の趣旨と活動の紹介と、Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン開催について周知しています。

本会は、1979年に発足し、2018年に40周年を迎えました。自治体に勤務する保健師長等を会員とし、地域住民の健康に寄与し、わが国の公衆衛生の向上に資することを目的として活動しています。


一般社団法人 日本精神科看護協会


精神科看護の力で心の健康を!



一般社団法人 日本精神科看護協会


本部長



にっせいめん
日精看 活動理念 

こころの健康を通して、
だれもが安心して暮らせる
社会をつくれます。

会長



一般社団法人 日本看護学校協議会



一般社団法人
日本看護学校協議会

当協議会では、各種研修会を実施し、看護基礎教育の質の向上に向けて、活動しております。

Nursing Nowへの取り組み

1. 研修会の資料提示の時にNursing Nowのロゴマークを入れました
2. 役員の名刺にNursing Nowのロゴマークを入れました
3. Nursing Nowキャンペーンを会員校に周知いたしております





研修会資料提示にロゴマークを挿入

一般社団法人 日本看護学校協議会

会長 池西 静江

〒104-0033 東京都中央区明2-22-2 明徳ビル46F
TEL (03) 3537-7381
FAX (03) 3537-7382
E-mail: am-7378@n.nhkngo.org(協賛)

役員の名刺にロゴマークを使用

公益財団法人 日本訪問看護財団

当財団立 訪問看護ステーションの訪問看護師とスタッフからのメッセージ

コロナ禍による状況の変化に臆することなく、これからも地域で暮らす在宅療養者の健康を守ります。








JVNF Japan Visiting Nursing Foundation
公益財団法人 日本訪問看護財団

当財団Nursing Now活動紹介ページURL：
<https://www.jvnf.or.jp/nursing-now.html>




▲ 開会のご挨拶
当財団理事長 清水嘉与子

「訪問看護サミット2020」の開催

テーマは「新型コロナウイルス感染症に訪問看護はどう向き合ったか、向き合うか」。コロナ禍での開催のため、財団初のライブ配信で行いました。厚生労働省医政局長、在宅医療に携わる医師や訪問看護ステーション所長、学識者からのご講演を中心に、意見交換ではチャットを使用し、参加者からの質問に講師が直接回答するなどオンラインならではの交流となりました。
※2月初旬からダイジェスト版をYouTubeで配信する予定です。



冊子等制作物のご紹介



訪問看護が作る地域包括ケア
～データからみる「訪問看護アクションプラン2025」の今～
2019年12月発行

- ・日本の訪問看護制度のしくみ (案)
- ・訪問看護の現状とこれから2021年版 (案)

日本語版
英語版
中国語版
韓国語版

2021年1月から
随時発行予定



一般社団法人 全国訪問看護事業協会

The National Association for Visiting Nurse Service 全国訪問看護事業協会

全国訪問看護事業協会は訪問看護におけるNursing Now活動を日本訪問看護財団と共同で展開しています。



訪問看護の力で健康な地域に♡

活動紹介



Nursing Now
キャンペーン
の周知



研修会でのPR活動

キャンペーンチラシの配布



機関誌 訪問看護ステーション
ニュースでNursing Nowの紹介



キャンペーンWEBページの作成



訪問看護ス
テーション
の地域での
Nursing Now
活動を支援



「私の訪問看護現場体験」
DVD
全国訪問看護事業協会



「こんにちは！
訪問看護です」
DVD
全国訪問看護事業協会



「訪問看護
現場から学ぶ」
DVD
全国訪問看護事業協会

地域での訪問看護の発信に向けたツールの送付

その他の活動

- Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン 「在宅看護と持続可能な社会」の企画・運営の協力
- 寄付やロゴマーク活用等を賛助団体に案内
- キャンペーングッズの案内



一般社団法人 日本看護系大学協議会



日本看護系大学協議会

×



2019-2020

一般社団法人 **日本看護系大学協議会**
Japan Association of Nursing Programs in Universities : JANPU




会員校への
Nursing Now
情報発信
2回/年

Nursing Now
看護の日×
Nursing Now
グッズ販売

会員校での
Nursing Now
活動実績
研修・学園祭・
オープンキャンパス
等



写真提供：聖路加国際大学



写真提供：聖路加国際大学



写真提供：日本赤十字九州国際看護大学



写真提供：聖路加国際大学

日本の看護系大学の287教育課程を会員校とし
看護学教育の充実・発展及び学術研究の水準向上を図り
人々の健康と福祉に貢献することを目的としています。



一般社団法人 日本私立看護系大学協会

会員校へ
Nursing Nowについて
情報発信

研修会で
Nursing Nowグッズの
紹介





一般社団法人 **日本私立看護系大学協会**
Japan Society of Private Colleges and Universities of Nursing



日本私立看護系大学協会は、私立看護系大学の振興を図り、我が国の看護及び看護学教育・研究の進歩発展に貢献することを目的とし活動しています。
現在の会員校数は大学184校、短期大学11校合計195校です。

We recognize the important role of private universities and colleges in nursing education. Through collaboration and cooperation between universities and colleges, we will contribute to the development of nursing education to fulfill our mission as an institution for higher nursing education in Japan.

会員校へ
Nursing Nowロゴ
使用依頼

Nursing Nowロゴ使用実績

- ・オープンキャンパス
- ・研修会ポスター
- ・名刺 等



提供：日本福祉大学



一般社団法人
日本私立看護系大学協会
Japan Society of Private Colleges
and Universities of Nursing
会長 河川 てる子
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-9-19 経緯堂ビル6階
TEL: 03-62341-2071
FAX: 03-62561-2072
E-mail: jpcu@jpcu.ac.jp
http://www.jpcu.ac.jp

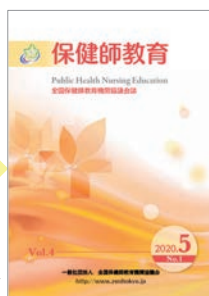
一般社団法人 全国保健師教育機関協議会

一般社団法人 全国保健師教育機関協議会



本協議会は、保健師教育課程を持つ学校が集い、教育の質向上を目指して1980（昭和55）年に設立され、今年、**40周年**を迎えました。全国7ブロックと6つの委員会を中心に**保健師教育機関の発展と保健師教育の充実**を図り、公衆衛生の向上と国民の健康生活に寄与するための研修、調査研究など様々な活動を行っています。

機関誌
「保健師教育」を
発刊しています。



会員校数
218校
(2021,1現在)

<http://www.zenhokyo.jp/>

公益社団法人 全国助産師教育協議会

全国助産師教育協議会

専用ロゴマーク



キャンペーン取組み方針と活動促進

公益社団法人全国助産師教育協議会

少子超高齢化を背景に、女性の生涯にわたる健康と男女のリプロダクティブヘルス・ライツを護り、安全で安心な妊娠・出産・育児を支え、エビデンスに基づく助産ケアを提供することのできる助産師を輩出するため、全国の助産師教育の向上と発展を図り、女性・母子とその家族及び社会に貢献することを目的に以下の事業に取り組んでいます。

- (1) 助産師教育の質の向上・環境整備に関する事業
- (2) 助産師教育関係者のための研修事業
- (3) 助産師教育機関相互の協力及び国内外の関連団体の協力と連携等の活動

本会では、将来、助産師を目指したい中高生、看護学生に向け助産学生の実習状況、助産師の活動状況をリーフレットで紹介しています。

オープンキャンパスで配布



助産師就業希望者用リーフレット



キャンペーン期間中、ロゴマーク挿入



認定看護管理者会



認定看護管理者会

Certified Nurse Administrator Association



一般社団法人 看護系学会等社会保険連合

一般社団法人看護系学会等社会保険連合
Social Insurance Union of Societies Related to Nursing

For Better Society
より良い社会のために、
私たちができること。

名刺にロゴを掲載しています
We recognize by our business card logo.

I support Nursing now

Nursing Now キャンペーンへの取り組み

Our activities to Nursing Now

看保連ホームページに掲載しています
We spread the information through our website.

看保連はNursing nowキャンペーンをサポートします。
Nursing Nowは、看護職への関心を高め、地位を向上することを目的とした世界的なキャンペーンです。世界保健機関 (WHO) と国際看護協会 (ICN) が連携し、Nursing Nowキャンペーン理事が運営しています。ナイチンゲール生誕200年となる2020年を境としてキャンペーンを展開します。看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、看護職が健康課題への取り組みの中心に立ち、人々の健康向上に貢献するために行動します。

看護の力で健康な社会を!

送信メールにアクセス先を掲載しています
We attract people from the URL in our e-mail signature.

★★看保連はNursing Nowキャンペーンに参加しています!★★
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/index.html
(↑↑Nursing Now (日本看護協会) サイト↑↑)

公益財団法人 笹川保健財団

Nursing now Activities 2019 to 2021 公益財団法人 笹川保健財団
Sasakawa Health Foundation

108名の起業家看護師を輩出(14~21)
＜日本財団在宅看護センター起業家育成事業＞
108 nurses completed our entrepreneurship program (2014~2021)

「世界の看護」に活動紹介
The introduction of our program was reported in State of the World's Nursing p.14

WORLD'S NURSING 2020

看護師が社会を変える
Nursing now 公益財団法人 SASAKAWA Health Foundation

Held an event discussed about what is a proper meal in the aging population
公開講座の開催(2020.2.15)
Investing in education, jobs and leadership

感染予防のために、できること。
All we have to do to prevent infection is simple.
新型コロナウイルス | COVID-19
「世界のために、できること。」
Stay well / Get well / Help your health. Respect / Care your nose and mouth / Don't touch your face / (Smile) / Use your non-dominant hand / 予防的行動を心がけ

感染予防啓発絵本&ポスター配布
Distributed picture books and posters about the prevention of COVID-19

訪問看護ステーションの感染予防対策を公開
Released an article about infection control and prevention for Home-nursing Center on our website

看保連が社会を変える
- Social Innovation by Nurses -

笹川保健財団 SASAKAWA Health Foundation

公益財団法人 木村看護教育振興財団

**公益財団法人
木村看護教育振興財団**
KIMURA FOUNDATION FOR NURSING EDUCATION

当財団は海外看護研修助成・看護研究助成・CNS奨学金助成・講演会開催など各種事業を通じて、看護職の皆様の活動を応援しています。



未来を拓く 看護の力



財団HPにバナーを掲載しています



海外看護研修助成
(米国・メヨウカニック)



看護研究助成・
CNS奨学金贈呈式



東京講演会



WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター/聖路加国際大学

聖路加国際大学
WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター
Nursing Nowキャンペーンへの取組み状況





聖路加国際大学教職員一同



大学オリジナルスト
ラップと缶
バッヂを
作成、教職員
に配布しま
した

WHOCCセミナーにて周知活動





2019年度学園祭にて、インスタグラム風のSNSパネルを設置、来場記念写真として撮影していただきました

災害健康危機管理WHO協力センター/兵庫県立大学地域ケア開発研究所

公立大学法人兵庫県立大学

災害健康危機管理WHO協力センター/地域ケア開発研究所 **Nursing now**

人々が健康に、安心・安全に生活できる社会を目指し、地域での生活を支えるケアに関する研究に取り組む、わが国初の看護学の実践研究拠点です。

災害看護・保健活動の普及を通じて、災害危機管理における看護のリーダーシップを強化するとともに、看護が積み上げてきた経験やスキルを、職種を超えて共有する活動を行っています。



私たちのNursing Nowキャンペーン

- ◆ 国内外の研修生と看護の知見を共有し、看護の未来を語る
- ◆ 災害時の健康支援や復興における看護の役割を社会に発信
防災・減災イベントやワークショップ等でのキャンペーン活動
Nursing Nowフォーラム・分科会3の企画&運営

「災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けた看護の貢献」



UNIVERSITY OF HYOGO

Research Institute of Nursing Care for People and Community

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター



~Nursing Now Forum in Japan~

Activities

National Center for Global Health and Medicine (NCGM)

活動紹介

国立国際医療研究センター

Published State of the World's Nursing 2020 in Japanese 「世界の看護2020」日本語版を発行



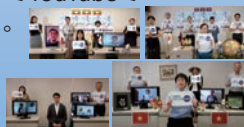
国際医療協力局は、WHO神戸センター(WKC)と協力して「世界の看護2020」日本語版を発行しました。

Video message by YouTube regarding COVID-19 with seven different languages

7か国語のビデオメッセージを発信

Nursing Now キャンペーンとしてYouTubeでビデオメッセージを発信しました。

日本語・英語・フランス語・
ラオ語・ベトナム語・
クメール語・ミャンマー語



Organized a part of WKC online forum WKC フォーラムの第一部を担当

WHO神戸センター主催のオンライン・フォーラム2020年の世界保健デー「看護師・保健師と助産師を支援しよう(Support Nurses and Midwives)」が開催されました。NCGMは、第一部「グローバルヘルスと看護」の座長を務めると共に「世界の看護2020」の概要を紹介しました。



・「世界の看護2020」, WKCフォーラムの開催 <http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2020/20201124113057.html>
・ビデオメッセージ http://kyokuhp.ncgm.go.jp/activity/overseas/other_act/index.html

日本赤十字社医療事業推進本部看護部



日本赤十字社の取り組み



ナイチンゲール生誕200周年記念誌を作成

赤十字教育施設で学ぶ看護学生、赤十字病院で働く現役看護師、ナイチンゲール記章受章者等からの寄稿を記念誌にまとめ、全国の赤十字医療施設・教育施設と赤十字看護への想いを共有しました。



動画作成：赤十字国際委員会 (ICRC)

ナイチンゲールの軌跡を紹介する動画を発信

ナイチンゲールの軌跡と赤十字思想の誕生の関わりについて動画にまとめ、SNSで発信しました。

<https://vimeo.com/499941456>

独立行政法人 労働者健康安全機構



神戸労災病院



本部
Headquarter
特定行為研修管理委員会



山陰労災病院



千葉労災病院

働くあなたの健康と安全のために
For your health and safety at work
独立行政法人 労働者健康安全機構



東京労災病院



九州労災病院



関西労災病院



和歌山労災病院

国立大学病院看護部長会議

国立大学病院看護部長会議

地域医療の中核を担う 42国立大学45病院 看護部の Nursing now

◆新型コロナウイルス感染症に対応する「看護の力」



今日からチーム！一緒に気合を入れる
山口大学医学部附属病院



血液透析は多職種で協力して、安全に
大分大学医学部附属病院



力を合わせて、変わらぬケアを。東京医科歯科大学医学部附属病院



心を寄せたい…たとえゴーグル越しでも
千葉大学医学部附属病院

◆各大学病院の Nursing Now



プリザードフラワーで届けます“看護の輝き”
弘前大学医学部附属病院



このような状況だからこそ、管理者はポジティブに
秋田大学医学部附属病院



これからも、看護の力で健康な社会づくりに貢献します！



社会福祉法人 恩賜財団済生会

Nursing now

https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/

済生会の看護力が地域をつくる

看護職にフォーカス——Nursing Nowキャンペーン展開中

2020年はナースインゲールが誕生して200年、世界保健機関（WHO）と国際看護協会（ICN）が連携し、看護職が持つ可能性をさらに広げる世界的キャンペーンを盛り上げています。済生会の看護職も、地域をさらに健康にするため、医療機関の枠を越え福祉を支える活動へと踏み出しています。

社会福祉法人恩賜財団 済生会

一般社団法人 日本私立医科大学協会病院部会 看護部長会

私立医科大学病院看護部長会のNursing Nowキャンペーンに向けた取り組み

私立医科大学看護部長会は、本院29病院、分院52病院の看護部長で結成されています

私立医科大学病院看護部として、災害時には、地域全体に向けた看護を提供することで貢献します。

1. 災害支援体制強化に向けて地域の医療者（行政・保健所・訪問ステーション・介護施設・医療施設）と顔の見える関係づくりを行います。

- 行政からの要請に対し、避難所の救護室へ派遣するシステムを、地域の看護部長会と連携し構築した施設もありました。看護部長会全体で連携フローを作成する必要性も認識しているところです。
- COVID19の発生に伴い、クラスターの発生した病院へ、認定看護師を派遣しています
- 加盟大学病院では、COVID19感染重症患者を数多く受け入れています
- 地域でクラスターが発生した場合でも、できる限り患者を受け入れ、貢献しています。

2. 私立医科大学看護部間で、災害時急性期医療に対応できる人材の派遣に関するネットワークをつくります。

- 災害が発生した時に、重症系の人材が不足することが考えられます。その地域では、人員の派遣は難しいと考えられます。今後の大規模災害の発生に向けて、DMATとは別に、他の大学病院から重症系病棟で対応できるナースの派遣のしくみについて構築することを考えています。



私たちはCOVID19に立ち向い、国民の命を守ります



独立行政法人 地域医療機能推進機構



独立行政法人 地域医療機能推進機構



JCHO: Japan Community Health care Organization

Nursing Nowキャンペーンへの取組状況



住民の健康を支える看護モデルの確立のために：
訪問看護や地域での保健予防活動を展開しています

自律した専門職の育成のために：
特定行為研修の推進を通じて、高度な臨床実践力を
発揮できる人材を育成しています



令和元年度に
初の修了者を
輩出しました！

病院看護部と附属看護専門学校が共同で
院内でナイチンゲールの記念展示を開催しました！



感染対策をした上で、多職種での在宅
訪問により安全・安心な暮らしを支えます

地域の住民も医療従事者も守るために：
新型コロナウイルスへの対応では国や自治体と連携し、感染対策
を行いながら診療を継続しています

全国国立病院看護部長協議会

独立行政法人 全国国立病院看護部長協議会



Nursing Nowキャンペーンへの取り組み

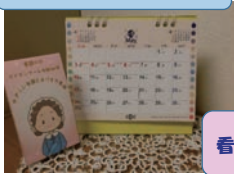
全国161の病院の中での取り組みの一部をご紹介します。

T医療センター



今年は「看護の力で笑顔の花を」をスローガンに、患者さんへメッセージカード送りました

HT医療センター



看護の日カードを各部署で設置

5月12日は看護の日



©1976, 2009 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. 0602672
地域連携室前の廊下で
ナイチンゲールの足跡と
H医療センターの看護
を紹介します。

H医療センター



- ① ナイチンゲールの足跡
フローレンス・ナイチンゲールの経歴・名言
- ② ナイチンゲールが進めた公衆衛生改革
クリミア戦争の勃発、従軍看護師としての参加
換気・保温の重要性と感染症を予防する衛生管理
- ③ 病院建築家としての病棟改革 等

公益社団法人 全国自治体病院協議会看護部会

公益社団法人 全国自治体病院協議会
JMHMA JAPAN MUNICIPAL HOSPITAL ASSOCIATION

Japan Municipal Hospital Association

全国自治体病院協議会 看護部会

全国1,000有余の自治体病院・診療所のネットワークの下、看護部門の職員の為の研鑽の場を提供しています

苫小牧市立病院

東京都立小児総合医療センター

新潟県立がんセンター

東京都立多摩総合医療センター

藤次市民病院

東京都立松沢病院

沖縄県立中部病院

大阪国際がんセンター

国家公務員共済組合連合会



国家公務員共済組合連合会 (通称：KKR) **Nursing now**

この活動は、世界的に看護職への関心を深め、地位を向上させることを目的としています。2015年国連によるSDGs（持続可能な開発目標）の17項目のうち3項目（すべての人に健康と福祉を、ジェンダー平等を実現しよう、働きがいも経済成長も）に関して「看護の発展が貢献する」としたトリプルインパクトという報告書をもとにキャンペーンを行うことを世界各地の看護協会が推進しています。

KKRの取り組み

- ・一般市民への活動周知
- ・ポスター掲示
- ・キャンペーングッズの紹介
- ・キャンペーン活動の紹介




一般社団法人 日本産業保健師会



デパート健康保険組合



高砂熱学工業（株）



富士通株

 **働く人の健康を支援する 日本産業保健師会**
一般社団法人

The Japanese Association of Public Health Nurses for Occupational Health

Nursing now



国際医療福祉大学



産業保健総合支援センター



日本産業保健師会研修会

一般社団法人 日本看護系学会協議会



一般社団法人 日本看護系学会協議会 活動紹介



**看護学の専門性の確立を
目指した活動**

- 看護ケアガイドラインの開発支援
- 公的研究費拡大支援
- 研究開発の推進
- APN制度の検討

3 すべての人に
健康と福祉を

COVID-19への対応

- 看護系学会等からの情報集積と発信
- 国民と看護職へ向けたメッセージ発信



日本の医療を救え

#NursingNow_いま私にできること

エビデンスと共に声をあげていこう



Nursing Nowキャンペーン実行委員会・都道府県看護協会の参加状況

Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパンでは、多くの方に視聴して頂くことを目的に、パブリックビューイングの実施を奨励した。Nursing Nowキャンペーン実行委員会、都道府県看護協会など多くの団体において、パブリックビューイングが行われた。新型コロナウイルス感染症の拡大により、一部都道府県では緊急事態宣言が発令されたこともあり、規模の縮小を余儀なくされたが、各会場において感染対策を講じて実施していただいた。

Nursing Nowキャンペーン実行委員会

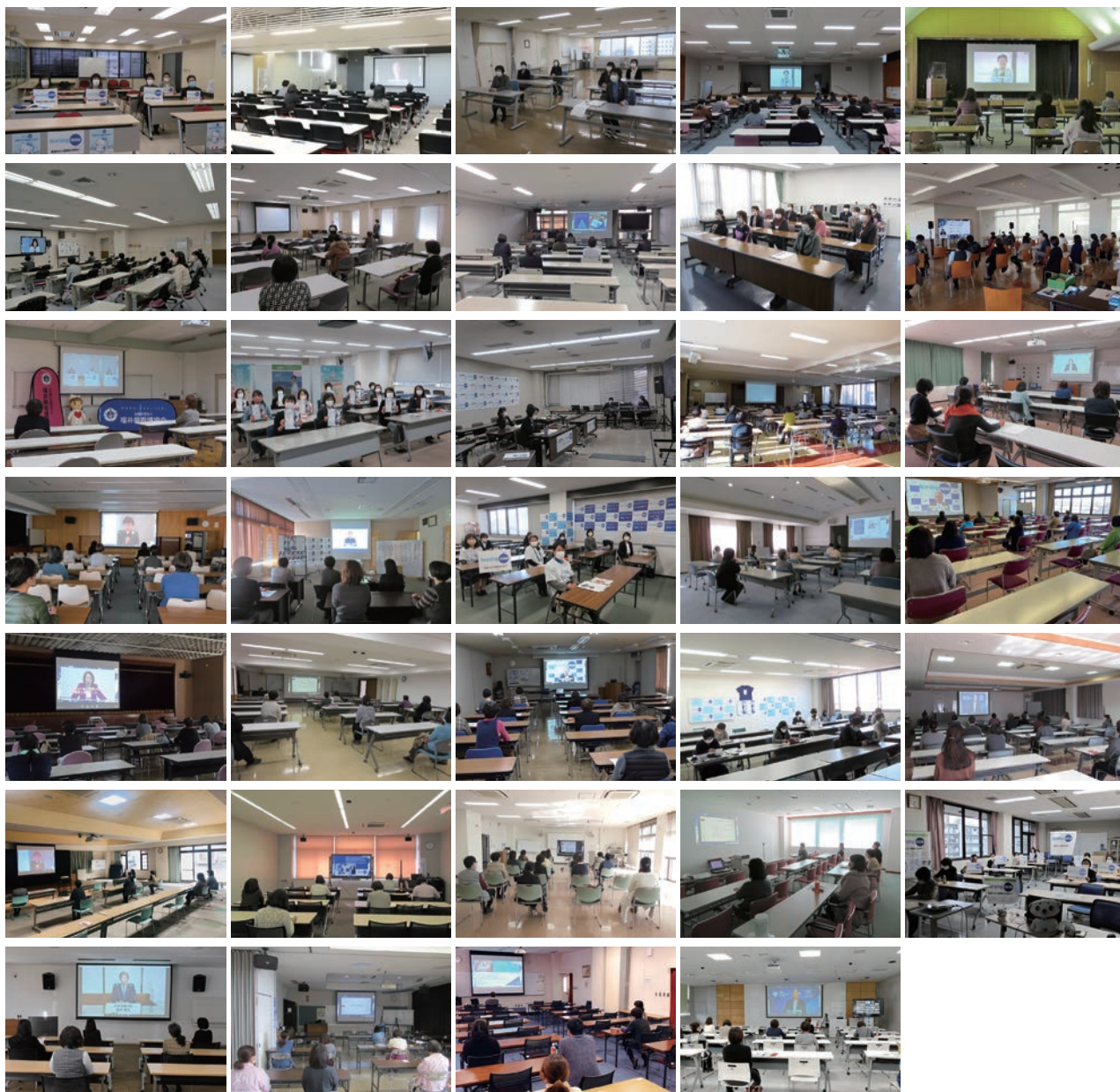


写真順：日本看護協会、日本看護連盟、日本助産師会、全国保健師長会、日本訪問看護財団、全国訪問看護事業協会、日本看護系大学協議会、日本私立看護系大学協会、木村看護教育振興財団、災害健康危機管理WHO協力センター／兵庫県立大学地域ケア開発研究所、国立国際医療研究センター、日本赤十字社医療事業推進本部看護部、恩賜財団済生会、日本私立医科大学協会病院部会看護部長会、地域医療機能推進機構、全国自治体病院協議会看護部会（3か所）、国家公務員共済組合連合会、日本産業保健師会

上記の他、以下団体も参加した。

日本精神科看護協会、全国保健師教育機関協議会、全国助産師教育協議会、看護系学会等社会保険連合、WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター／聖路加国際大学、労働者健康安全機構、国立大学病院看護部長会議、日本看護系学会協議会

都道府県看護協会



写真順：岩手県看護協会、宮城県看護協会、秋田県看護協会、群馬県看護協会、千葉県看護協会、神奈川県看護協会、山梨県看護協会、長野県看護協会、富山県看護協会、石川県看護協会、福井県看護協会、静岡県看護協会、愛知県看護協会、三重県看護協会、滋賀県看護協会、京都府看護協会、兵庫県看護協会、奈良県看護協会、和歌山県看護協会、鳥取県看護協会、島根県看護協会、岡山県看護協会、徳島県看護協会、香川県看護協会、愛媛県看護協会、高知県看護協会、福岡県看護協会、佐賀県看護協会、長崎県看護協会、熊本県看護協会、大分県看護協会、宮崎県看護協会、鹿児島県看護協会、沖縄県看護協会

上記の他、以下協会も参加した。

北海道看護協会、青森県看護協会、山形県看護協会、福島県看護協会、茨城県看護協会、栃木県看護協会、埼玉県看護協会、新潟県看護協会、岐阜県看護協会、大阪府看護協会、広島県看護協会、山口県看護協会

参加者アンケートに寄せられた主なコメント

1. アンケート実施概要

- 1) 期間：2021年1月21日（木）～29日（金）
- 2) 方法：ウェブアンケート、運営委託業者が実施
- 3) 対象：参加登録者5,346名、回収数133

2. 主なコメント

【政策実現に向けて：政策提言、エビデンス、リーダーシップ】

- このムーブメントが実際の活動に発展し、継続していくために何をすべきかを一人一人の看護師が考えていかなければせっかくの機会が活かされない。特に、リーダー育成の活動に積極的に取り組んでいきたいと思う。
- 看護の価値を可視化し政策に訴えていく努力をしていく必要性を強く感じた。
- 政策提言とは具体的にどうするのかよくわからなかったが、自分たちの日々の実践の延長であることが理解できた。職能団体の活動の重要性を再認識できた。
- 今後の保健医療関係の他の職能団体との連携におけるリーダーシップに期待する。
- リーダー育成、教育の重要性、看護の可視化等改めて考える時間だった。
- 実践者として、もっと何をしなければならぬのか、新たにどのような能力を持たなくてはならないのか、どのように教育するのかなど考えさせられた。
- 組織のトップにいる管理運営者は、常に研究を積み重ねエビデンスに基づく発言が重要であり、相手方の信頼と政策に結びつけることが出来るということを改めて認識させられた。

【地域における活動】

- 看護師の担う役割が一人一人の健康にとどまらず、地域の健康にも及ぶことが実感できる内容だった。
- 看多機を開設された看護師の方たちの話を聞けて、やる気があれば出来ることが限りなくあることに気づいた。
- その土地（地域）にある資源を活用し求められるサービスに発展していく様に感動した。
- 地域社会の健康と生活を守っていけるよう、看護師としての使命感を忘れず今の自分ができることを継続していきたいと思う。
- 先ずは、自分の暮らす地域から目を向けていきたいと思う。
- 密に世界と繋がり世界規模でコロナ対策も含めた地域看護をみんなで考えられる機会を作っていただければと思う。

【災害への備えと対応】

- 多角的に災害看護について学ぶことができたのでとても勉強になった。

- 看護師としての役割が多岐にわたること、コーディネート力など、様々な場面で能力を発揮する素晴らしい職業だと再認識した。
- 様々な形で看護師が平時から災害時の支援を行っていることが分かった。自治体保健師として災害時の受援要請を行う立場であり、関係団体の受援方法についてボランティアセンターや防災担当部署と役割分担が必要だと感じた。

【看護職の価値・その他】

- 改めて看護職の重要性や必要性を考える事が出来た。
- 明日からの仕事もまた、頑張ろう、という気持ちになった。自身の仕事に誇りを持ち、尽力していく。
- ナイチンゲールの偉大さを再認識した。
- 世界の看護職の熱いメッセージを聞き、とても誇らしく思った。ナイチンゲールの思いを受け継ぎ、明日からもコツコツと頑張っていこうと思う。
- 改めて看護職の誇りや責務を認識させられる素晴らしい内容だった。
- 看護職は人種や国境をも超えてつながることが出来ると感じたフォーラムだった。
- 看護をPRする素晴らしい企画だった。



「看護の日・看護週間」制定30周年・
ナイチンゲール生誕200周年記念イベント 報告書

2021年3月31日第1版発行


〔編集・発行〕

公益社団法人日本看護協会

〒150-0001東京都渋谷区神宮前5-8-2

TEL:03-5778-8831 (代) URL:<http://www.nurse.or.jp>

本書の無断複写・掲載は禁じます。



「看護の日・看護週間」制定30周年・
ナイチンゲール生誕200周年
記念イベント

報告書